

PAPERS OF PVM

27

1/14

自昭和三年三月南京於今儿支那兵暴行及
至同年十月掠奪事件
解決交涉關係

1011

3-12

13

13

13

13

13

松本記録

昭和二十五年十月
遺族より提供を受

昭和二十五年三月
日 月 日

東京大学
文学部
国文学科
教授
松本 一

光昭和二年三月二十六日午後三時二十分
在上海 矢田總領事 幣原大臣

第八二号

貴電第三三一号ニ関シ

南京方面ノ形勢ニ王顧ミ海軍ト協議ノ結果不取敢

一廿九日頃寄港ノ豫定ナリシ第一艦隊ヲ繰上ケ青

島ニ入港碇泊セシム

二青島方面ノ第一遣外艦隊所屬屬艦ヲ貴地方

面ニ回航セシム

三以上ノ一時的危急措置ニ過キサルモ必要ノ際更ニ

貴地方面ニ陸戰隊ヲ増遣シ得ル様内地ニ於テ
準備ニ着キス

尚南京事件ニ関シ別電ヲ八三号ノ通リ蕪湖領
ヲテ蔣介石ニ警告セラルル様ナル方目下森岡ハ
病臥中ニ付事件ハ急速解決ノ爲メ日英米三國
領事協同シテ將ト對商ハ必要アル場合或ハ一
貴官ニ南京出張、上交渉方電命スル事アル
中モ計ラレサルニ付豫メ御留意アリタシ

電送牙二三八七号

昭和二年三月二十六日午後四時三十分

在上海 矢田總領事

幣原大臣

第八三号

左記電報然ルハキ方法ヨリ蕪湖ニ轉達アリ

本大臣宛在蕪湖領事代理宛電報牙一七号廿四日

南軍兵士帝國領ヲ侵入ニ射撃破壊掠奪

苛暴行ヲ行ハサル無ク遂ニ我ハ駐在武官及警

察署長ヲ負傷セシメ廿五日朝我驅逐隊司

命以下ノ決死隊ニ依リ僥ニ領ヲ領負及彼方ニ收

容、邦人避難民等全部ヲ下関ニ引揚ケシメタ

ルモ從來我カ海軍側ニ於テハ南軍幹部ノ節制
ニ任頼シ且等亂暴ナル軍隊ト一接戦ヲ避ケ隠忍
ニ隠忍ヲ重キ專ラ居留民保護ニ努力シ城内邦
人救出ニ際シテモ司令自ラ武裝セズ危險ヲ冒シ
テ城内ニ入リタル程ナリ然ルニ右ノ如ク從來其例ヲ
見サル暴行カ自ラ國民革命ヲ標榜シ規律正シキ
コトヲ誇トスル南軍ノ年ニ依リ行ハレタルコトハ日本
朝野ノ痛山痛シク意外トスル所ニレテ折角南
軍ニ對シテ同情ニ傾キツアル日本ノ國體モ之カ
為テ一大變化ヲ来サトスル兆アリ

加之同地左留美米人百數十名
 已或「南軍」抑留
 せうと或「避難」途次射撃せうと
 遂に兩國軍艦ハ
 是等避難民救助、為し発砲
 応戦せんこと
 今猶救出し完し得ん
 如き紛糾状態ニ至ん
 一、ミナト、支那側地方官憲ハ
 何レに責任回避、
 言辯り以て却り暴慢ナル態
 云々出で美米人
 一、憤激ヲ買ヒ、アリ為し
 美米兩國ニ於てハ非
 常手段トシ、今迄、指墨ニ就
 ち重大ナル決心ヲ
 為さんことヤ、已測り難ク
 旁ニ事態頗ル重大ナル
 形勢トナレリ、若し此際
 簡介、如き責任アル

南方有力者力一刺毛早ク南京ニ赴キ如上ノ紛糾
予態ヲ処理シ列國ノ満足スル解決ヲ自ラ進ニテ
迅速実行スルニ非スルハ國民軍並國民政府ノ將
来ニ由テ救悪影響ヲ及ボスノ虞アリ
就テハ貴方ハ正急解決ニ直接面談シ上述
趣旨ヲ申入レ予態ノ惡化セサルニ先テ爾自ラ
南京ニ入リテ善後措置ヲ講シ責任者ノ処罰罰其
他日美案ノ責任者トシ件解決ニ付迅速協定ヲ
遂クセバ必要ナルコトヲ嚴重ニ勸告セラレ結果尾
板アリ至レ

上海
本省

三月二十六日收
三月二十七日午前着

幣外務大臣

矢田總領了

第三四七号

任電牙三四二号之圖

南京下仲之圖スル列國、要求ハ要スルニ一謝罪ニ、

賠償三處罰四保障一四ヶ条ヲ出ササレハト

思ハルニ付右条仲ヲ即時実行スル旨ヲ自著

的ニ声明方明 甲午七日 朝詢接一方法ニテ請フ石ニ

勸告方取計ヒタリ

上海
本省

三月廿八日
廿七日午後
前着

幣原外務大臣

矢田總領事

第三五三號

貴電牙八三號御訓令、廿六日、夜接到、之夕、九、二付

直ニ黃部ニ討シ、往電牙三四七號、轉付石ニ討

スル勸告ハ本官ト令一、元打合セ、夕、九、後ニスル様

申、丁、墨、ヲ、廿七日、本官、黃部ト會見、御訓令、趣旨

ヲ、好ク、徹底セシムル、ト、其、本官ト、轉付、石ト、會

見、ヲ、ア、ト、ニ、シ、セ、ム、ル、様、取、計、ハ、シ、メ、タ、リ、黃、部、直ニ

轉、ヲ、往、訪、セ、リ、本官、其、後、佛、米、兩、總、領、事、ヲ、訪

内レ中官カ訓令ニ基キ蔣ト会見スハ平旨諒解ヲ求メ
墨キタリ一英國總領事ハ未ダ捉フ得ス

尙今日ノ支那新聞ニ掲載セラレタル蔣介石ノ談ニ
拠レハ蔣ハ南京事件ヲ山東軍ノ宣傳部長何海鳴

ノ仕業ナリト述フ外國人ノ損害程至ハ大ニタモ

ニ非ラト稱シ居ルニ付其ノ缺點ヲ黃郛ニ指摘シテ

蔣ノ誠意ヲ疑ハシムモノ有リト批難シタルニ黃

郛ハ南京上陸ノ考ナリシモ該事件突發セルヲ

以テ急遽上海ニ来リ本件交渉ニ當ルト共ニ上

海ノ秩序維持ニ全力ヲ集中スル決心ヲ國人南京

二、
勘
時
留
在
之
經
潛
り
事
情
、
報
告
に
接
し
タ
ル
カ
程
、
説
明
、
前
記
の
新
聞
記
事
、
如
キ
モ
、
ナ
リ
シ
ハ
才
二、
減
量
ナ
キ
ニ
非
ズ
、
辯
明
セ
リ

上海

三月廿八日午後
三月廿九日午前

駐外務大臣

矢田總領事

第三五号

陸軍部三五三号之関

二十七日祝賀節より電送あり
蔣介石の黄一忠告

内容に廿八日不取敢被害関係國語を録し
何

代理交渉員の派し南京事件の関し遺憾なく
意

を表せしむるに若し事件の真相を分明し候ふ
事

処罰賠償の責任を執るべき旨を申入るに
事

トナリ密着し二十八日午前十一時交渉署に
至

本府ト会見ス、申旨申越シタリ同二十七日祝交
 涉署王科長ヨリモ会見ノ日時ニ決シ同様ノ申越アリ
 タルニ付本官ハ二十八日午前十一時交渉署ニ至リタル処
 將ノ命令繳底セサリシモノカ内前ノ番兵ハ本官
 ノ目撃事ヲ遮リタルニ付草野ヨレテ之等番兵
 ニ対シ約ニ依リ本官カ將總司令ヲ来訪セルヒ旦
 出ケレタルニ拘ラズ彼等ハ是非普通来訪者ト
 同様内收ニ入リ更云々候付ノ手續ヲ為スヘト
 子聞ハス其態交亦面白カラサリ、ルヲ以テ本
 官ハ本素テラ將自身来訪陳謝ス、ハテ能カニテ

モアリ強ク彼ト会見ノ必要ナシト認テ直ニ引返シタリ

然ルニ本官歸館後交渉署員ヨリ電話ニテ傳テ石

力本官ヲ待テ役々居ル旨通知アリタルニ付前記ノ事

情ヲ述、右行違ニ関シ陳謝スルニ非サレハ訪問セスト

断リタルニ折返シ電話ニテ手落ケリ陳謝スルト共ニ

交渉署員ヲ内衛ニ立タシメ間違ヒナ中様取計ニ

ス、キニ付是非未だ防アリタルトノ事ナリトモ本日

ノ支那紙ニ本官將總司令ニ拜謁云云ノ記事アリ

英米佛等ノ同僚ノ思惑モ顧慮セラル且御訓令

ノ趣旨ハ莫ク邪ヲシテ微存セレメアルヲモアリ

暫ク將ノ態云ヲ見ル方宜シカルトレト存シ他ニ結
束アリトテ断リ置ケリ。

上海
本省

三月廿九日
收着

幣原外務大臣

矢田總領事

第三八号

往電第三六五号ニ関シ

二十八日夜、黄郛来訪、蔣介石ノ「ハツセイ」トシ

テ同日朝、行達ニテ陳謝シタル上、特ニ極秘ニ願

ヒ交シト前、墨シテ内衛兵士カ嚴重警戒スルハ

蔣介石外出ノ際、兩三日乗車シタル自働車ニ昨

日、爆某カ乗リタル処、爆彈隠シアリテ破裂シタ

リ、尤モ爆彈ト言フモ、銃力鎗鎗ニ似テ、強ト見

毛一ニレテ自佛事内部ヲ破壊シタルニ過キカリニモ在
リ勿論其ニ對スル陰謀ニテ其共產黨系ノ仕事モ
ハ申迄モナレ南京事件ノ真相ハ愈々一系ノ智
力將介石一派ヲ倒サントル苦肉ノ計事ナリ事
昭然トナレテ將ハ本官ノ報告ハ能ク了解シ居ル
モ今日直ニ本官ノ「サセ」ト云々力如キ南京事
件ニ對スル全責ハ任ヲ負ヒ犯人ノ嚴重処罰並
ニ被害ノ賠償等ヲ即時実行スル中旨至急声
明スル事ハ出来難キ事情ナリ即チ共產黨系
學生、工人等ヲニレテ未タ武裝ヲ取上ケ得サルモ

1 鮮カヲ云著シ此際右声聴ヲトサニカ彼等ニ好箇
1 口實ヲ与ヘ反將暴動ノ突発ナキヲ保シ難シ依
予熟議ノ結果不取敢交渉負ヲニテ關係國領事ニ
口頭ニテ任電ヲ三六五号前段ノ趣旨ヲ申入ル
事トセム次ヲナリト述ヘ尚陳友仁、孫科、宋子文
ハ恐ラク上海ノ事ナカルヘシ右ハ蔣力再至電
報ニテ急ナクタル為メ却テ疑惑ヲ懷キ名
結果ナリト附言セリ

北京
本省

三月廿九日
三月廿九日前着

滬東外務大臣

芳沢公使

第三〇九号

三月二十八日英國公使より至急會見を希望し、本
使及米國公使に申入れたる結果、午前及午後二
回より英國公使館及當館より三公使會合の上
協議を完了し通

英國公使は、本國政府より電報訓に接したるより
上海英國司令長官より同國政府より電報に依
りて在南京日英米三國、先任海軍將校等八南

京ニ於ケル支那軍憲ニ対シ或一定時刻ニ該先任將
校等・イ軍艦之来リ責任ヲ認メ謝罪ヲ爲シ賠償ヲ
爲ス旨ヲ通告スル事旨ノ要求ヲ爲ス事ヲ提議シ
且支那軍憲ニ此ノ要求ニ応セサル場合ニハ先
任將校等ハ司令部其他ノ軍ヲ設備ヲ砲撃
スルヲ但出素得ル夫一般市民ニ損害ヲ与ルヲ
ルハ之但先任將校等ハ各其ノ所属司令長官
ヨリ許可ヲ得ル迄ハ何等措置ヲ執ラザルニシ
ト申述シタル方右ニ対シ日英米三國ノ司令官ハ
乃廿七日差當リ開戦ニ至ルハ此ノ種ノ提議ヲ許

可セサル事ニ協定アリタリ

司令官等ノ意見ニ依リ南京ニ駐子受ケタル

損害及侮辱ト今後ノ行動ノ一トコニプロマイズ

避ケンカ為ト南京事件ニ付共同又ハ個々独立ノ

行動ニ出ツハキヤ否ヤニ関シ的確ナル方針ヲ

示サレシヲ本國政府ニ請求スルヲ必要ト認

メタリ就テハ何カノ指令ヲ請フヲウケリマス

荒城司令官ヨリモ夫々同様ノ請訓ヲ受ケタリ

ト有リ

就テハ司令官夏官ノ請訓ニ因シ日米兩國公使ト

協議ノ上ト大至急意見上申方今朝電訓ニ接セリト
披露シタル上篤ト意見ノ交換ヲ遂ケタルカ由使
ハ在上海總領事宛貴電ヲハ三号ニ基キ帝國
政府ヲ啓シハ既ニ在上海總領事ヲ對シ蔣介石
ニ勸告ノ上南京ニ於テ日英米三國ノ責任者ト
事件解決ニ付迅速協定ヲ遂ケルハ杭州令
ヲ發シ同總領事ニ於テ右ニ依リ目下行動中
ナリ旨ヲ内張シタル所兩公使ト毛滿其是ノ意ヲ
表シタルカ午後會見ノ際錫々在上海總領事
宛閣下宛往電ヲ三号五号接到シタルニ付其大體

一内容ヲモ以テ之ヲ要スルニ今回、南京事
變ノ事態ノ性質上相当ナル要求ヲ提出ス、
モ一二、右要求容レラレサル場合、又之ニ對スル
万策ヲ講ス、トモ、此ノ見地ニ基テ要求
条件ヲ起草スルヲトナリ種々瑣談ノ結果要求
条件ノ骨子トシテ責任者ノ処罰賠償謝罪
今後ノ保障及フタムハリニツト、五項ヲ綱羅ス
ルヲトシ別電ヲ三ノ名ノ通要求条件ヲ三
人限リ、之ヲ協定シタリ、トタイハリニツト、
之付テハ
最初美國公使ヨリ要求条件提出ノ瞬間ヨリ幾

日力、日限ヲ限ルヲトシ提議シタルモ本件使及米國
 公使ニ於テ多少ノ餘裕ヲ設クルヲ、得第ナルコ
 トヲ說キタル結果別電案、通ノ協定ニ至リタ
 ル迄ヲミテ尚本使ヨリ佛國人二名殺害セラレタル
 事實ト佛伊兩國、参加ヲ求ムルヲ、得第ナル
 ヲ説明シタル結果明日本使ヨリ兩國公使ニ對
 シ別電要求案件ヲ試ミニ云公使限リニシテ
 起案シタリトテ兩國、参加ヲ求ムルヲトナレリ。
 本使ハ兩國公使ニ對シ今日、交渉ハ非常ニ重大ニシ
 テ種々、考察ヲ要スル所ナルヲ此、要求案件

ヲ貫徹セシトモ、其の各國協同政府ニ於テ非常ナル
決心ヲ要ス、ソノ中使ノ觀ル所ヲ以テスレハ此ノ要求
條件ヲ提出シテ直ニ將ヘテ一容ルル所トナレハ此
上モナキ好都合ナルモ、蔣モ直ニ之ヲ承諾セサル
ヲ以テ而シテ一方武昌政村及左傾派ノ分子ハ
之ヲ機会トシテ蔣ノ失脚ヲ圖ル、ソノ蔣ノ要
求條件實行ノ後失脚スル、ソノ我々ニ於テ別
段痛痒ヲ感セサルモ實行前ノ失脚ハ實ニ我々
ノ得策トセザル所ナリ、且又左傾派ノ外勞農顧向
等ノ活動等モアルハ、ソノ要求モ亦條件ノ容易ニ

買徴七サレハキハ強テ無理ナル想像トモ云フ可
信テ大抵之於テ軍事行動ニ出ソルヲ一餘儀ナキ
云々トハキハ南京方至江蔭ニ至テ砲撃ノ効
力如何ト述ヘタルハ英國公使ハ自今ハ元素揚子
江及廣東ノ封鎖ヲ得第ト認ケルモノナルニ同
ハ公使ハ漢口事件ノ際モ封鎖ノコトヲ本使ニ提
シタルコトアリ右ハ各國少クモ日英米三國共同
シテ之ヲ実行スルニ非サレハ何并效力ナシト考
スト述ヘタリ鬼ノ角要求条件ニハ適當ナル措置
云云ト認メアルニ付具體的ノ措置ハ各國ノ裁量

五ツル次ヲナシ

尚兩公使ノ強ニ依リ米國人ノ死者一人負傷者三々

ニテ美國側ノ死者多分五人ナルハニトコトナリ

以上三公使協定ノ次ヲ以具陳シ帝國政府ノ高裁ヲ

仰ク

三月二十九日午前本省着

在支芳沢公使來電第三一〇号

譯文

本國政府ニ次ノ諸項ヲ要求スルコトニ決定セリ

甲在上海各國總領事ハ將次ニ對シ直ニ交渉

ヲ開始シ將ニ對シ次ノ諸條件ヲ提出スルヲ

一、虐殺、虐待ニ對スル加害、侮辱及物價的損

害ニ對スル責任軍隊指揮官並之ニ關係シ

タル一切ノ者ヲ適當ニ処罰スルヲ

二、國民軍總指揮官ヲ外國人ノ生命及財産

ニ要スル一切ノ暴行及煽動ヲ為ササル旨ノ明約ヲ
含ミ謝罪狀ヲ取付クルヲト

三、生命及財産上ノ被害ニ對スル完全ナル賠償

乙、轉介石ニ於テ前記諸條件ヲ達ニ承諾スルニトテ

満足ニ表明セサレニ於テハ關係各國ハ其ノ承諾ニ

期限ヲ附セサルヲ得サレニ至ルハ其ノ場合右期

限内ニ承諾ヲ得サルニ於テハ關係列國ハ其ノ達

當ト思考スル措置ヲ執ルハキヲ留保スル旨

併セテ轉介石ニ對シ各總領事ヨリ通告スルヲ

北京
中省

三月廿八日
廿九日
前

常務外務大臣

芳沢公使

第三一五号

任電牙五〇九号三閣

三國公使、會德中陳友仁ヲ經テ武昌政府ニ對シ

本件交渉ヲ爲スハキヤ否ヤ、詳論アリタル如キ使

ハ今回ノ事件ハ全然軍隊ノ所動ニ關スルコト

ニテモアリ且非常ニ重大ナル案件ニ付陳友仁

ヲ相手ニ交渉ヲ爲スモ能クニ時日ト詳論ヲ容

費スルノニテ其効ナカルハ、之旁今日中政府

考案通り軍ノ最高指揮者タル蔣介石ニ交渉スル
方最適切有勢ナルト思考スル旨ヲ述ハタルニ美
國公使ニ全然同意ナリト述ハ前記往電通り決定
ヲ見込セヨナリト

北京
布省

三月廿九日收着

第百外務大臣

芳沢公使

第三一六号

第百外務大臣

三月二十九日 英米佛伊四国公使ヲ招キ本使ヨリ

佛伊兩國公使ニ対シ要求条件起草ニ至リテ

ハ経緯ヲ説明シ三國公使ハ兩國公使ノ参加ヲ希

望スル旨述べタル如ク兩國公使共全然同意ヲ表シ直

ニ去々本國政府ニ電報スル旨ヲ答ヘ茲ニ本國公

使ノ関スル限り要求条件一確定ヲ見ルニ至レリ

ㇿ
 ス
 ト
 ヲ
 ナ
 ト
 ニ
 ノ
 ニ
 致
 セリ

電送第 二五〇〇一五〇号

昭和二年三月三十日午後八時五分

在北京

芳沢公使

幣原大臣

南京事件

第一五四号

貴電第 三〇九号 及 第 三〇号 二箇之

(一) 仰承示、余仲、松段 B 一タムリミット、ヲ除ク

外 往電 第 一五二号ニ合致シ帝國政府ニ於テ

異存ナシ

(2) 一タムリミットニ就テ、英國公使、強硬論ヲ爲シ

此上海電本大臣宛電報第 三八一号ノ通り、請ハ

石川閣下上海ニ於テスル苦境ニ隔リ且漢口龍口大
 臣宛チ一六七号 未段ノ如ク共産派ハ全休會議
 々決トシテ蘇ハ権限ヲ拘束シソソ南京事件
 一難局ニ同人ヲ主タルトシテテ矣陸セシメタル
 苦境ノ計ヲ圍ラシ居ルハ推測ニ難カラズ此上
 列國側ニ於テ一層強硬ナル態ヲ示シ同人ニ於テ
 列國ノ要求ニ應ジ得サル場合ニハ實力ニ訴フル
 ヲトテ暗示スルニ於テハ武昌側共産派ノ
 計劃セル所ノ夾脚ヲ早ムルニ過キタルニ有毛
 其ノ結果ハ揚子江以南ニ於テ治安ノ維持ヲ

一層困難ナルミナリ却テ今日甚シキ無政府
状態ニ陥リ遂ニ收拾スヘカウサルヲ能ク出現ス
ナキヤナキハ此ノ際列國トシテ最良ノ策ニ支
那ノ治安ハ其那人ノ手ニヨリテ維持セラルベシ
南軍側ニ於テ不完全ナカク王統御ノ中心トナリ
居ル健全分子ニ對シ時局ノ安定ヲ計ル、機會
ヲ与フル、外ナシト思考ス今回ノ南軍事件ハ端
状ノ極メテ重大ナルモノアリ當テ亦ノ満足ナル解
決ヲ得ルカ否ニハ強硬手段ニ訴フルニ十分ナル理
由アルニ拘ラズ矣因テミテ先ノ獨ノ自衛的解

決り僅力に更ニ別電ヲ一五五号ノ如ク上海總領
 事ヲシテ爾ヲ激勵セシムルノ本旨ハ前述ノ共産
 派陰謀ニ將ニ列國側ニ引込マレサル様努力
 シ爾等健全分子ヲシテ本件ヲ解決セシム
 事南方ノ事態ヲ正收拾セシムトスルニ在リ之
 カ為ニ可成列國側ヨリ正解等ノ失脚ヲ促カス
 ノ結果ヲ俾フカ如ク措置ヲ避クムコト肝要ナリ
 右ノ方針ニ就キ貴官ヨリ乘末公使ニ懇望ヲ遂
 ケテ貴電ヲ三〇号B中under 此トアル
 此 the Nationalist Army へ改メ又 to specify

a time-limit for compliance, failing

which they reserve to themselves - 何ヲ削除

ニタリ

(三) 矢田宛電訓執行ノ結果並前記「タリ」リミットヲ

削除スル共同要求ヲ提出シタル上ニテ其ノ他

南軍側ノ態度措置ヲ見定メ先復愈々強硬手

段ニ訴フルヤ否キ線ハニ討策ヲ講スルコトトシ

タリ日本ノ如ク漢江以上ノ上流ニテハ在留民

亦々所ノ領事館出張所ヲ有スル國ニ於テハ之ヲ

救護又ハ引揚ケ等相当日数ヲ要スル準備行為

ヲ為ササルハカラス美國側ノ如ク直ニ強硬手段
ヲ執リ得タル點ヲ考慮ニ加ヘ説明シ置カレタリ
(四) 陸軍部一五五号中隊ノ通り共同交渉ニ日本力
参加スル理由一 吾等實際ノ交渉ニ際シ列國側ヨリ
過重ノ要求アリタル場合日本力中間ニ立入リ之力
緩和ニ努ムルヲトテモ考慮シタリ 且一ニテ前項
ノ趣旨ニ基キタルニ外ナラス御意ニテ

上海
如查

三月廿一日
廿日 午後
廿一日 午前

幣原外務大臣

矢田總領事

第三九八号

陸軍部 五十五号 及 陸軍部 三八一号 之 函

二十九日 交渉 負 来 訪 正式 二 行 達 了 陳 謝 之 明日

会 見 願 意 之 卜 一 申 出 有 了 依 了 廿 日 午 前 交 涉

署 之 蔣 介 石 了 往 訪 一 内 前 兵 士 之 態 云 一 麥 塔 列 年

本 官 之 擇 午 鐘 一 禮 了 為 七 了 黃 郛 一 通 訊 云 了 一 實 下

以 南 京 事 件 一 責 任 了 認 了 之 了 回 避 云 云 了 十 七 日

卜 一 檢 閱 之 對 之 全 責 任 了 負 上 取 調 一 一 結 果 二 從 上 犯

人処罰賠償等ヲ実行ス、レト答へ、殊ニ英米軍艦ノ砲撃
ニ日本軍艦ノ参加ヲセサリシ事實ヲ知リ感佩ニ堪
ハス、右國民革命軍初メ支那人一般ニ對シ日本ノ對
支外交力英米ノ壓迫政策ト分離シ独立セルモノナル
ヲ、澄明ノ様ヲ周知セシメ日支ノ關係上多大ノ好
影響有ル、レト信スト述、次ニ本官「(一)上海附近
ニ旋々治安維持ニ付之新全責任ヲ負フヲ當ラ
ルルヲト希望ス、南京事件以來上海ノ日本ノ神
經痛々過敏トナリ今朝ノ新聞ニ依リ今迄消
極的傍觀的ナリシ米國迄千五百名ノ陸戰隊ヲ

増援シ十二隻ノ爆撃機ヲ行署ヲ送ル事ニ決定セ
 ル旨華府発電今朝ノ新聞ニ見エタルカ美佛ノ鋭
 意兵力ノ充實ヲ計リツ、アルハ申述モナシ今日ハ
 實ニ危機一髪ノ重大時機ニシテ些細ノ事ヨリ大
 事件ヲ惹起スハキ危険性瀰漫シツアリト
 云フヘシ此ノ際当地ノ治安ノ責ヲ負フ貴下ニ於テ
 特ニ深甚ナル^建慮ヲ煩ハスト述ハタルニ貴意ヲ察
 セリ必ス嚴重ナル取締ヲ為スヘシト明言シタルニ付
 夫レニ予引上ケ引取りタリ、
 尚弊ハ貴部ト共ニ二三日中ニ晚餐ヲ差出スト勸メ
 ルモ何レ其ノ機会ハ有ルヘシト漸クタリ。

三月二十日 木村 亞細亞局長 海軍大務

局長トノ協定

一 木村局長ヨリ

南京事件善後交渉ニ関スル帝國政府ノ方針ハ
別紙芳沢公使宛回訓及矢田總領事宛訓電
ノ通り出来得ル限り支那側諸ニ請フ所
ヲレテ本件ヲ迅速圓滿ニ解決セシメテ之ヲ從
テハタイムリニトテ附シテ一經ノ最後通牒ニ
進キモ一ヲ提示スルニハ反對ナシト同時ニ假ニ
將一紙カ本件解決ニ全責任ヲ負ヒテ列國

トノ内ニ満足ナル解決ヲナレ得サル場合帝國力愈々列國
ト共ニ最後ノ強硬手段ニ出ツル前ニハ居留民引
揚等ヲ爲相克ノ時日ノ餘裕ヲ残シ置クヲ最
肝要ナリ即チ國下ノ政府ノ方針ハ一政治的
解決ニ着シ其不ナ可能ナル場合ニモ居留民保
護ニ關スル準備的措置ヲナスノ餘地ヲ残シ置ク
コトノ見地ニ立ツモノナリ、

依テ右政治的解決力難々可能ナリト云々ノ決
セラルルニ先立チ第一ニ長江沿岸ニ在ル居留民
ノ人心ニ多少ノ安心ヲ与フルノ措置ヲ執ル必要アリ

之ヲ為外務省トシ、ハ不取敢上海ニ適當ナル兵
力ノ増員或ハ目下巡航ノ途ニアル第一艦隊ノ一部
ニ予ニ上海ニ差廻シ夕キトニ就キ海軍大臣ニモ
上申考慮ヲ煩ヒ交シ

ト述ハタルニ

軍務局長ハ

海軍ニ付目下

ハ荒域司令官ノ指揮權ノ下ニ兵力ヲ統轄セシ

ムル為メ先任將官ノ率フル大艦ヲ派遣スル

ハ面商カラサルニ付不取敢輕巡洋艦ニ隻ヲ派

遺
スルコト

(二) 別二八雲級一軍艦ニ三百乃至五百一陸戦隊ヲ
載セテ之ヲ荒城司令官ノ麾下ニ属セラル

(三) 以上一補充ニヨリ司令部官所屬一駆逐艦ヲ

ヲ成石上流漢口迄一箇ノ所遺艦置セラル

一云矣之付略々内詳ヲ遂ケツツルヲ以テ早
速海軍大臣一決裁ヲ仰テ之ニ回答スヘシ

ト答ヘタリ

二 栗三木村局長ヨリ

(一) 以上ノ措置ノ外下條トシテ亞細亞局長ト軍務局長ト一箇ニ有ル場合ヲ假定シテ豫人之ニ對スル措置ノ方法ヲ講究シ置ク必要差迫レルヲ以テ之カ爲ニ亞細亞局第二課長、軍務局軍中課長、軍令部課長ヲ、今至急協議セ、レメ之ヲ講究シタシ

(二) 場合ヨリテ以上ノ準備措置實行ノ準備トシテハ長江各地尠クモ漢口又ハ長沙辺リ迄ハ軍令部員及亞細亞局長ヲ因立タサル方

法に依り派遣スル必要アルハシ

(三) 全然亞細亞局長ノ私案トシテ右準備的措

置ニ関シテハ大体三期ニ分ケテ計画ヲ立ツ事要ス即

第一期

「タイムリミット」ヲ附シタル通牒ヲ支那側ニ提

出スル以前ノ措置トシテ漢口上流迄成都

重慶、慶、萬縣、宜昌、沙市、常德、長

沙各地ノ邦人ヲ漢口迄順次引揚ケルハ下

同時ニ漢口下流ニテハ相当ナル軍艦一隊泊シ

得サル蘇州、杭州方面ノ邦人ヲ上海ニ引揚

レハルヲト

ヲ二期

「タイリミット」ヲ附シテ通牒ヲ提出スルト同時ニ
枕ルハ中措置トシテ、大冶、九江、蕪湖、鎮江
等各地ノ邦人ヲ最寄港口又ハ上海ニ引揚ケ
集中スルヲト

南支各地即チ福州、厦門、汕頭、廣東等
各海港ニハ何時ニテモ邦人ヲ收容シ得ル様
當ニ軍艦ヲ配置シ必要ニ応ジテ且チ邦人ヲ
收容シテ適當ノ地點例ハ台湾等ニ引揚ケル

ノ準備ヲ為スコト、

第三期

「タイムリミット」經過シ列國力遂ニ共同武力手段ヲ

用フルニ至ル場合、措置トシテ最早十陸軍ノ

力ニ依ル外十千ヲ以テ初メテ上海ノ防備漢口

ノ保護等ノ為列國共同ニテ陸兵ヲ配置シ我

海軍ハ列國海軍ト協同シテ作戦ニ移ス、

トナルル中所在三期ノ措置ニ関シテハ今日暫クニ

計画ヲ樹ツルコト或ハ機密ヲ保タシ得スニテ意

外ノ障礙ヲ去ス惧アルニナラス廟議ノ決定

敕裁ヲ要スル事項ナルヲ以テ、因下内閣議ヲニ爲
ス、本財料ニ達シ居ラズ畢竟才一期及才二期ノ
準備ニ關シテ上局ノ裁決ヲ仰ク前段ノ係官面ニ計
画ヲ樹テ置カトスルニ過キス、

ト述ハタルニ、

軍務局長ハ、

準備の措置ノ時期及計劃ニ付テハ大作同様ナリ
殊ニ才一期ノ準備ヲ実行スルトモ現在ノ
長江ノ水險状況ニハ四月中旬頃マテハ萬
縣上流方面ニ在リ我砲艦ハ下航シ得ズ從テ假

リニ才一際ノ政府方針ヲ依リ政治的解決ヲ計ル場
 合ニハ於テモ其那側之ニ志セズ則國力遂ニ強硬
 手段ヲ執リサルを得ルト法スル以前之ニ少ク
 トモ二三週間ノ餘地ヲ存シ置ク一居民保
 護上絶対ニ必要ナリ此見地ヨリ外務省一方
 方針ニ依リ本件カ満洲ニ解決スルト否ト
 内ハス海軍省トモ一ハ其決公使宛電ヲ以
 テ一タム、リミットニ關スル矣ヲ削除セラルル
 事トモ全然同意ナリ最後手段ニ決スル迄ニ三
 週間ノ餘地ヲ残ス事トモ付此一上トモ外務省一考

上意ヲ仰キ示シ、

ト答ハタリ、

南京事件善後交渉經過要領

(昭和二年三月廿一日 苑在政事大決案電報)

蔣介石は廿六日上海に於て、以て蕪湖領事代理宛

電訓し、名目總領事代行に執行するに付、トナリ廿七日

不取敢蔣派要人黃郛に對し、右電訓の趣旨を

好く徹底せしむるに、其に蔣介石ト、會見するに配

せし、墨斗タル力、蔣は廿八日不取敢被害關係國

領事館に交渉負う派に、南京事件の關之

予遣、然し、意を表せしむるに、其に事件の真相を明

マ後夕子処罰賠償等、責任ヲ執ル、ト旨ヲ申入レ
レ、同夜黃郛ヲ矢田總領事、一許ニ遣ハシ、我方、動搖
ハ好ク諒解スル、已共、臺灣派、一將ニ討ル、矢野陰
謀盛ナル、今日、処罰賠償等、即時実行ヲ達ニ、聲明
シ得サル事情アル、次、傳言セシメ、夕子廿日、矢田總
領事ハ、交渉署ニ、蔣ヲ佐訪シタル、蔣ハ、本件ニ對シ、
責任ヲ負ヒ取調ヘ、結果ニ、送ル犯人、処罰刑損害
賠償等ヲ実行ス、ト述ベ、美米軍艦、一砲撃ニ
日本軍艦、参加セサ、トテ、感謝シタル、上、矢田總領
事加南京事件以來、外國人、神經益々過敏トナリ

美米佛トモ兵カノ先害ヲ計リソ、凡有標ニテ些組ノ下
ヨリ大事件ヲ惹起スヘキ危険性ヲ藏スル重大時機ナル
ヲ指搦シ上海ノ治安維持ニ付特ニ深甚ナル考慮
ヲ并要スル旨警告シタルニ對シ、實意ニ應ジ、好ク諒
義セラル以テ必ス嚴重ナル取締ヲ為スヘキ旨ヲ明
言シタルニ付、同總領事ハ之ニテ一旦容諒ヲ打
切レハ難ナリ

他方本件善後交渉ハ、一將介石等南軍最高指揮
者ニ移テ、南僑國ニ對スル正式謝罪・損害賠償・表
任者ノ処罰及將來ノ保障等、本件解決ノ一般原則

ヲ兼認スルニ於テハ (2) 進ニテ具體的交渉トシテ現
場ニ於ケル實地調査ニ移ルニ歸取リトナルハキ然此
際列國トノ協調維持ノ必要アリ且解決條件ヲ
有利ニ庇護セシムルニ以テ共同交渉ヲ得第トスルニ
並今次英米軍艦、南京砲撃ニ我海軍ノ加ハ
ラサリシ關係上我方ニ於テ英米友邦側面ニ居
中國艦ヲ爲シ居ルヲ并、見地ヨリ英米ト協同
シテ交渉スルヲ大局上得第ト認メタムヲ以テ此
京ニ於テ日英米三國及ニ被害國係國佛ノ四公
使團ニ共同交渉ノ主義協定ノ上ニ解決條件

一原則承認ニ付テハ在上海總領事ヲシテ(二)共同調査
ニ付テハ在南京總領事ヲシテ夫々支那側ト左商セラルル等
交渉ノ順序方法ニ付協議セラルルヲトナリ廿八日ノ夜
趣旨ニ付テハ關係國公使ト適宜折衝方芳沢公使ニ
電訓セリ

之ヨリ先支美國公使ハ南京ニ往ケル日美米三國
海軍先任將校ハ同地支那軍艦ニ付テ一定時刻ニ
右三國軍艦ニ来リテ陳述謝シ並損害ヲ賠償ス
ル旨ノ声明ヲ為スハキコトヲ要求シ聽カレサ
ル場合ニハ支那側軍事施設ヲ砲撃スルハキ

旨各司令官ニ提議シタルニ司令官等ハ之ヲ許
 シ、ルト同時ニ本國政府ニ令授ノ勅勅ヲ發
 シタル趣ヲ以テ日米兩國公使ト協議、上海方面
 見回申方本國政府ヨリ訓令ニ接シタリトテ廿八日
 日米兩國公使ヲ招キテ意見ノ交換ヲ求メタリ、依テ
 芳澤公使ハ蕪湖宛及同公使宛前記帝國政府
 訓令ノ趣旨ヲ内信シ種々論議、結果本國政府
 一、回申案トシテ決メ協定ヲ遂ケ、其ノ回電
 シタリ

(一) 在上海各國總領事ハ蔣介石ニ對シ、真々ニ交渉

ヲ開始シ爾ニ對シテ諸條件ヲ提出スルヲ

ハ、虐殺、傷害、侮辱及物質的損害ニ對スル

責任軍隊指揮官並之ニ關係セル一切ノ者ヲ

適當ニ処罰スルヲ

又、國民軍總指揮官ヨリ外國人ノ生命財産ニ害

及ビ一切ノ暴行及煽動ヲ為シ、ル旨ノ明約ヲ

爲シ謝罪狀ヲ取付クルヲ

ハ、生命財産上ノ被害ニ對スル完全ナル賠償

(二) 蘇州石ノ砂子前記諸條件ヲ速力ニ承諾スル

コトヲ満足ニ表明セザルニ非テ、於テハ關係各國ハ

其ノ承諾ノ期限ヲ附セサルヲ得サルニ至ルハ其
ノ場合右期限内ニ承諾ヲ得サルニ於テハ關係
各國ハ其ノ適當ト思考スル措置ヲ執ルハキコト
ヲ留保スル旨併セテ聲明シ各總領事
ヨリ通告スルコト。

右承諾ノ期限ニ關シテハ最初美國公使ハ本件
要求提出ノ時ヨリ幾日カノ期限ヲ明瞭定スル
コトヲ提議シタルニ日米兩公使ハ多少ノ餘裕
ヲ與ヘ置クノ得策ナルヲ認テ名義結案之ヲ
明瞭セサルコトトナシ趣ナリ尚右協定ハ翌廿九

日若沃公使ヨリ之ヲ佛伊西公使ニ提示シテ參
加ヲ希望シタルニ兩公使全然同意ニテ直ニ
未々中國政府ニ電報ヲ南ナリ。

右三國公使ノ意見ハ大體ニ於テ帝國政府ノ異存
無キ所ナルモ蔣介石ニ對スル共産黨派ノ陰謀
盛ニシテ南京事件モ蔣ヲ難局ニ立タシメ

失脚セシメタトスル苦肉ノ計略ナルヲ廿五日

南京領下館ニ避難民ヲ收容中南軍中士七
歸長力森岡領テテ某訪ハ事件ハ南軍内部ノ
不良分子ト南京共産黨支部ノ豫メ通謀計野

レタム一十ル丁ヲ明言シ又今回ノ最行カ特ニ外國
領ヲ被教會學校其他一般外國人ヲ目標トシ
行ハレ去那人例ニハ強ニト被害ナキ事實其他諸
般ノ情狀ヨリ見テ想像ニ難カヲサル所ナルハ此際
列國ニ於テ薄ニ對シ列國ノ要求ニ応セサル場
合ニハ實力ニ訴フル丁ヲ端示スルニ於テハ却テ
共產派等ノ計劃セシ弊ヲ失脚ヲ早メ長江
以南ハ更ニ甚シキ無政府狀態ニ陥リ遂ニ
收拾ス可ヲサル事態ヲ現出スルハ慎ミテ以
テ南軍側ニ於テ不完全台ヲニ統御ノ中心ト

ナリ居ル健全分子ニ対シ時局ノ安寧ヲ計ル機会
 ナリ与ルルヲ第トスルニ付(一)芳沢公使ヲ之ヲ英米
 側ニ協議シテ前記三公使協定ノ要求条件
 中允諾ノ期限ニ關スル字句ノ削除ヲ懇談セ
 シムルト共ニ(二)右削除ヲ經タル共同要求ヲ
 提出シタル上ニテ其其他南軍側ノ態度ヲ
 見定メタル後強硬手段ニ出ワルハナキヤ否ヤニ付
 條々ニ対策ヲ講スルヲトシテ亦中絶漢口上流
 ニ二千ノ居留民、右箇所ノ銃ヲ一發出張所并テ有
 ル日本トシテハ之ヲ收護又ハ引揚等ニ相当日あり要シ

國側ノ如ク直々ニ強硬手段ヲ執リ得サル莫クモ考慮ニ加
ヘ適宜英米側ニ説明セラルトセシ世日在ノ趣旨ヲ在王公
侯ニ列電セリ同時ニ矢田總領事ニ對シテ毛蔣亦在外
國人保護ニ關スル一片ノ訓令ヲ以テ列國ノ満足ヲ得ルニ
足ルモノト思考スルトセシ自己ニ對スル以外ノ壓迫・恐ヲ爲
事件ノ重大性ト之ニ對スル我方ノ苦心ヲ了解セサルモノ
ト謂フ可ク一方蔣一派ノ失脚ヲ早メトスル陰謀
愈々明白ニシテ國民軍自体各蔣一派ノ運命ニ關シテ
毛重大機微ノ時ナルニ鑑ミ國民軍中此際勇氣ヲ果
斷ヲ以テ解決ノ衝ニ當ルモノナレトセハ國民運動ニ同

情セル諸國王遂ニ國民軍ニ望ミ絶ク列國共同自衛ノ策ニ
出タルノ機アリ

現ニ北京ニ於ケル關係公使間ノ協議ニ程子ニ將ニ討
最後通牒ヲ發セムコトヲ主張シタルモノアリ日本ハ往

テニ事態ノ紛糾ヲ加フル力如キ此種強硬意見ヲ

緩和調停セムトスル意味ヲ已加味シ進ニテ列國協

調ニ參加スルノ方針ヲ立テタム迄ナルヲ將等ニシテ

我方ノ苦衷ヲ諒トセズ本件解決ニ付此上時日ヲ遷

延セシムルニ於テハ我國端ノ沸騰ニ遂ニ制止スルヲ得

サルニ至ルハ本旨ヲ莫鄒ヲシテ蔣ニ申入レレバ再迄

其ノ深甚ナル反省ト決意ヲ佐サント右面接ノ方法ヲ
見込ト申レト認ムル場合ニハ矢田總領ヲ直接將ニ
面談勸告スル手様電訓ナリ

南京事件ニ関スル件

在上海矢田總領事宛幣帛大臣電報寫（昭和二年

三月三十一日發電）

第九六号

貴電ヲ三八一号ニ関シ

一、貴方貴電ヲ三六五号前段、如中姑息、解決

手段乃至貴電ヲ三八〇号在留民保護ニ関スル

一片、訓令ヲ以テ日中其、他列國、満足ヲ得ルニ

足ルモノト思ハスルニ於テハ同氏ハ其意弗識、

跋扈ヲ取締ル決意ニ至ルヲ自己ニ對スル内

外ノ壓力ニ恐リナシ南京事件ノ重大性ト之ヲ
スル我方ノ苦心トヲ了解セサルモノト謂ハサルヲ得
ス關係領事ノ報告ニヨリ今回ノ暴行ハ南
軍ト親軍ノ所屬部隊中共産黨ノ黨代表及
以將校等カ豫メ準備計劃シタル組織的
排外的暴行ニシテ而カモ蔣及其一派ノ共脚ヲ
早ナトスル陰謀ニ基クコト愈々明白トナレリ
ミテラス上海其ノ他ニ於テモ此種陰謀ノ計画セ
ラレトスル傾向アルヤニ傳ハサル果シテ然ラハ
國民軍自任並蔣及其一派ノ運命ニ関シテモ重

大機微、時ナリト思考セリ。他一方之於國民
軍中、事件之關シ、勇氣果斷ヲ以テ解決、衝
ニ當ルモノナリトセハ、支那ノ國民運動ニ同情セ
ル諸國モ遂ニ國民軍ノ前途ニ望ミ、絶テ列國
共同自衛ノ策ニ出ワルニ至ル。盧サントセズ、現
ニ北京ニ於ケル列國公使、南協議ノ模範ヲ仄
國スル中、此際、豫ニ對シ、最後通牒ヲ發セム
ヲトテ主張スルモノアリ。此ノ間、日本ハ往々ニ事
態ノ紛糾ヲ加フルカ、如キ強硬意見ヲ緩和
調停セムトスル、趣旨ヲモ加味シ、進ニ列國

協調ニ参加スルノ方針ヲ立テタル者ナリ要ス
ルニ將トレテ今十内外一般ノ信頼ヲ得テ時
局平定ノ大業ニ成功スルカ又ハ内部ノ陰謀ニ
乗セテ遂ニ機会ヲ逸スルカ其運命ヲ決ス
ル、鍵ハ依自身ノ決心如何ニアリトイフべシ。

(二) 元來我方ニ於テハ支那ノ純真ナル國民運動ニ對
シテハ第一同情ヲ惜マサル共ニ支那當局ノ平
定ハ飽ク迄ハ支那國民自身ノ努力ニ依テ成
功セムヲ祈ルモノナリト雖モ右國民運動
ノ口實、下ニ排外的破壊運動猖獗ヲ極ムル

二 陸子ハ 露ニ 東洋ニ 和局ノ 爲メノ ミナリ 世界
 人道ノ 爲ニ 王ニ 密認スルヲ 得ス 羞シ 將キ
 予 我方ノ 甚衰ヲ 諒トセズ 南京事件ノ 解決ニ 付
 予 王此ノ 上 存 存 日ヲ 重キスルニ 陸子ハ 我國 滿
 沸騰ハ 最早 在 制止スルニ 由キニ 至ルヲ 日友
 兩國 關係ノ 前途ヲ 思ヒ 憂慮ニ 堪ヘズ

(三) 就予ハ 貴官ハ 黃郛ヲ 通シテ 敘上ノ 趣旨 爲ト 申
 入レラルルト 若ニ 合ニ 交 其ハ 深甚ナル 反省ト 決
 意トヲ 促サムト 予 試ミラレタク 或ハ 貴官ノ
 考ニ 予 是 苛ニ 忠告ヲ 黃ニ 陸子 恩地リ 直言

スル、見込トセハ貴官直接轉ニ面談シ
告セテ結果回電アリタレ

北京
少本省

二日前
四月二日前看

幣帛外務大臣

芳沢公使

才三三二号

貴電才一五四号之関之

三月二十一日美米佛伊四國公使卜強ナ必要、打合

セテ遂ケタル上四月一日四公使ヲ招キ御訓示、次

才ヲ讀出セタル上帝國政府一主旨、今直ニ「タイムリ

ット」ヲ宣トントスル迄一ニ非ス、レニ、要求條件「

爾方石ニ提出シタル收事態ノ發展ヲ見届ケ

タル上強硬手段ニ訴フルヤ否ヤヲ決セントスルモ

ナリト述ハ修正ニ依レハ「不明」ハ「タイム」リットルヲ削除
スレハ交渉ノ遷延・スル畏アリトテ異議ヲ述ハタル
本使ヨリ日方ノ修正ヨレハ「タイム」リットルヲ削除ス
ルを辭介石力要キ余仲リ答レサル場合五國ハ尚
其速事ト認ムル措置ヲ採リ得ル次第ニテ且我方
トシテハ四國ト異リ楊子江上流ニ多クハ居留民
ヲ有シ其ノ保護乃至引揚ケニ多大ノ手廻ヲ要ス
ル故ナリトテ重慶範圍下宛係電ヲ一一号ノ
名ヲテ披露シ各公使ノ意見ヲ求メタル知英
公使ハ本國政制ヨリ一石ノ電訓ニ接シタル方右ニ

依_レ同國政府_ノ大體要求條件ニ承認ヲ与ヘタル上
其ノ意見トシテ

(一) 謝罪ニ就_テハ蒋介石ヲシテ親シク被害國ノ

formal military paradeニ應_ジ其國旗ニ敬禮セシ

ムルヲモ一案ナリ

(二) 蒋介石_ノ要求條件ヲ提出スルハ同時ニ漢口ニ於_テモ陳友

仁ニ提出シテ蒋介石_ノ要求條件ヲ承諾セシムル

ニ便セシムルヲ可然ナ旨申越セリ尚右兩訓ニ依_テ

英國政府_ハ蒋介石_ノ要求條件ヲ承諾セリル場合

ニ對スル制裁ニ付_テハ陸海軍ノ協同ノ上成案ヲ

得タル後之ヲ在上海「ケリット」提督ニ電報シテ其
ノ意見ヲ徴シタル後同公使ヲ經テ日、米、佛、伊
四國公使ニ通告ス「レト」事ヲ「ト述」伊國公使
他ノ四國公使全部ノ一致スル措置ニ總テ同意シ
差支ナシト「電訓」ニ接シタル「ト披露」佛國公使
ハ同國政府ヨリハ破棄ハ絶對必要ノ場合ニ限
ル其他ニ就テハ五國共同ノ措置ニシテ五國協調ノ
本旨ニ基クモノナルヲ「之ニ加」リ差支ナ
シト「電訓」ニ接セリト述「米國公使ハ未タ電訓ニ
接セズト述」タリ英國公使初「他ノ各國公使共是

政府ニシテ「タリリミット」ノ又曰ハ「削減スル意見
 ナリトスレハ夫レニテ可ナルモ唯要求条件ヲ承諾
 セ、レムル為ニハ強カ「バック」ヲ必要トスト述入奉
 使ハ日政府ノ趣意ハ事態ノ推移ヲ見タル上
 強カヲ用フルヤ否ヤヲ決シタルト云フニアリテ或
 ハ多少双方ノ趣意ニ差異アルヤ計リ難キモ差
 當リ一所 specify a time limit for compliance
 failing which they reserve the right to
 一ミヲ削除スル「ミ」異存ナキナト尋ネタル如各公
 使共異存ナント答ヘタリ本使ハ尚英國政府ノ意見

(一) 未夕実益ナク体面ヲ重ムルニ支那人ニ不向ノ
 意見ニテ從前ナラシ角^免今日ニ於テハ之ヲ見合ハス
 コト可然(二) 形式如何ニ依リテハ異存ナキモ
 二ヶ所ニ於テ同一交渉ヲナス事ハ不得集ナル
 ニ付陳友仁ニ對シテハ唯通告スルヲ夕ヶニ留メ置
 キ之ニト述ヘ他ノ各公使モ同線ノ意見ヲ述ヘ夕
 日結果陳友仁ニ對スル通告ノ前文トシテ別電ヲ
 送リ云々号ノ文字ヲ協定セリ
 本日、会談顛末ヲ右ノ通りトシカ米國政府、訓
 電到着以テ更ニ会合スル事ニ打合ヲ遂ケタリ

Peking, April 2nd a.m.

Rec'd " " "

Gaimudaijin,

Tokio.

No. 333

Under the instructions of the....Government

I am directed by the....Minister to present to you
the following terms(which are also being addressed

General Chiang Kai-Shk, Commander-in-Chief of the
Nationalist Armies) for the prompt settlement of the

situation created by the outrages against ...nationals
committed by Nationalist troops at Nanking on March 24th
last.

Yoshizawa.

上海
本署

四月二日午後

幣原外務大臣

矢田總領事

第四二二号

貴重外九二号二関ニ

四月一日夜黄鄂ヲ私宅ニ招キ御訓令ノ趣寫ト申

聞ケタル処黄ハ御報告ノ趣旨ハ先日貴下ノ傳言

トテ予爾ニ申聞ケル処ト大御同様ナレト云今因ハ

特ニ外務大臣ノ厚意アリ警告ナレハ慎重ニ取

計ヲシテト子要領ヲ書取リ明瞭早速轉ニ傳ヘ

其ノ結果ヲ御知ラセスヘトテ引取リタリ其際黄

曰ク將ノ減意アルヤ否ヤ早ヤ疑ハル人ナカルハク
唯疑ハルルハ其実行能力ナルハシ此ノ能力ニハ列國側
ノ出極モ示ソテ力アルヲモ忘ムハカラス將ハ目下
ノ急務トシテ断行スハトニ内題アリ一南京事件ノ
至急解決ニ上海ニ駐ル工人ノ武装解除是ナリ
前者ハ軍規ニ照スモ犯人兵士ハ全部極刑ニ処スハ
モナレハ報告入年次ヲ断行スハク賠償モ日佛ハ砲
撃ヲ居ラサレハ簡單ニ片付クハシ唯憂慮モナレハ
漢口ノ共産派ハノ關係ナリ有様ニ申モハナ一回ノ
正式抗議ハ國民政府ノ外務大臣タル陳友仁ニモ提

出せられ一極秘ナリ軍艦ヲ已漢口ニ集メテ居ル威
壓ヲ加ヘ實ニ結構ナリ一実行ハ勿論海力責任ヲ
執ルナレトモ此形式ヲ執ラサル時ハ海力如何ナル
解決方法ヲ講スルモ彼等ハ良キ口実ヲ得テ
蔣攻撃ノ次ノ手ヲ揚クハシ殊ニ英米ノ砲撃ヲ
誇大ニ宣傳シ蔣ニ英米帝國主義ノ走狗ナリ
悪名ヲ付スルハ有リ得ヘキコトナリ
故者工人一武武装解除ハ之ヲ行フ時期方法特
ニ注意ヲ要ス急遽断行セハ各所ニ軍隊ト一衝突
ヲ惹起シ總工會ノ總罷工ノ命令下ルハナク折角

出せられ一極秘ナカう軍艦ヲ已漢口ニ集メテ居ル威
 壓ヲ加ヘ贊ハニ結構ナリ一実行ハ勿論將力責任ヲ
 執ルナレトモ此形式ヲ執ラサル時ハ將力如何ナル
 解決方法ヲ講スルモ彼等ハ良中口實ヲ得テ
 將攻撃ノ次ノ手ヲ揚クハシ殊ニ英米ノ砲撃ヲ
 誇大ニ宣傳シテ將ニ英米帝國主義ノ走狗等
 悪名ヲ付スルハ有リ得ハキトナリ
 故者工人ノ武装解除ハ之ヲ行フ時期方法特
 ニ注意ヲ要ス急遽断行セハ各所ニ軍隊トノ衝突
 ヲ惹起シ總工會ノ總罷工ノ命令下ルハク折角

平穩ニ帰レタル上海ヲ再ヒ不安ニ陥ナレ轉ル所ニ治安
維持ノ能力ナレト非難ヲ蒙ルレ云云、

倫敦
本省

四月 二日 午後
三日 午後

幣原外務大臣

松村大使

才九二号

在米大使宛電報才一四七号ニ関シ

二日「ソエ」ルズ「ト」吉田ニ内話左ノ通

(丙) 日本政府ノ修正案並ニ其ノ理由、當國ニ於テ

好ク諒解スル処ナルカ強制手段ヲ採ル「ト」同意

セ「ル」「ト」期限ヲ附セサルモ可「ト」

(三) 余ハ必要ノ手段ハ日本政府ニ強テ同意ス「ト」

思フモ日本政府ハ英國政府ノ採ル「ト」一切ノ手段ニ

豫メ同意スルヲ能ハサルニ

(ウ) self respecting government 斯ル暴行ヲ甘受

スルヲ許ササルニ付極メ秘ナルカ美國政府ハ制裁

一謝罪、所謂、賠償ヲ課スルヲdeterminingセリ故ニ

~~determining~~ 交渉ヲ始メタル後本件ハ主消トナル如

キハ到府美國政府ノ容認シ能ハサル歟ナリ

(コ) 英國政府ハ如何ナル強制手段ヲ採ラントスルカ

(カ) 之ハ陸海軍ノ四策ニ基キ内閣ノ決定スル中知

ナルカ未タ其ノ運ニ至ラス但シ日本ハ強制手段ニ

元々スルハ何等ノ効果ナシ

(2) 然うい美國政府は日本政府に對し斯うく、一平
段ヲトルニ同意スルヲ尋ヌレハ可ナルニ非ス

(3) 答へず

(4) 本國ノ態度如何

(5) 本國公使は他國公使ト全然同意見ナルハ本國政府
ノ態度ハ何等義知エズ

P.V.M. 27 2/14

④
前二部告
訓電ヲ指入

電送第 二六四二号

昭和二年 四月二日 白、三〇

在支芳沢公使

幣原大臣

第一五八号

往電第 一五四号 之 美之此際可成得、自發的声明

ニヨリ 事件解決ヲ 迅速且良解好ニ 導キテ

可然ト、見地ヨリ 更ニ 上海總領事ニ 対シ 別電

ヲ 付 七号、通訓令ニ 基キテ 付貴官ニ 急用

係列國代表者殊ニ 美米公使ニ 右ノ 次ヲ 經電ヲ

一五五号、趣旨ト 併ニ 懇請シ 斷力ヲ 爲ス

ノ 勸告ヲ 密ニ 中 不中 即 其 誠意 並 決心ヲ 披

概々として、
王寵惠、内務、如く多少时日ヲ備ヘ遣ハ必要ニ
リ、旁茲、
張ヲ遂ケテ結末、
當方及上海一電報アリ、
期可然旨、
五

電送 二六六四号

昭和二年四月二日午後三時二十分

在上海總領事

幣原大臣

外一〇七号

貴電 三九八号 及合 四〇四号 二 其

(一) 蔣 於 三 日 既 責 任 以 事 件 解 決 一 底 意 又

アルモノ 如ク 密 告 せ う ん ぬ 此 際 矢 張 往 電 外 其 九 六

号 一 趣 旨 一 依 リ 緩 々 激 勵 之 其 一 決 断 又 促 サ ル 九

ト 左 時 二 一 態 一 紛 糾 二 先 々 速 二 蔣 二 於 三 (一) 貴

友 指 示 一 解 決 案 条 件 一 原 則 即 々 委 罰 謝 罪

賠 償 保 障 又 實 行 ス ル 決 意 ア ル コト 又 自 然 的 二 声

懇
説
セ
ウ
レ
タ
ン

民黨ノ組織ニ對シテ
之場ニ鑑ミ形式上ニ于テ

此ノ種調査ノ年統ヲ至ル要アルハキ、我方ノ充分豫察
スル所ナルモ、未件ニ關スル責任ノ所在ニ付テハ、予件
當日亦同額ヲニ對スル黨代表ノ説明並総證等、
衆明ニ依ルモ殆ニト明白ナルヲ、其側ニ減意アルニ
於テハ之ヲ調査シ容易ニ結了シ得、之其ノ以外ニ
損害額を討人負者ノ如キ解決ノ具體的細目
ニ至リテハ何レノ途解決ノ原則大綱決定後、其
側ト列國側トノ共同立會調査又ハ專門委員ノ
交渉等ニ待ツ、被害關係國側ノ参加ナク、之ヲ
豫メ右ニ代表限リニ調査スルモ有益ナル結果ヲ

ん、レト思ハス加之右調査殊ニ斯ル細目調査、必要
ニ藉口シテ時日ヲ遷延スルニ於テハ關係列國ニ於テ
將、誰、竟ヲ疑ヒ遂ニ意匠的ニ要求ヲ提出シ將
一立場一層苦境ニ陥ル、キハ現ニ在、北京列國公
使會談ノ形勢ニ鑑ミルモ明ナリ就テハ右代表、調
査ハ之ヲ單ニ條件ニ對スル責任所在ニ限定シ
極メテ迅速ニ例ハ、西三日否ニ之ヲ遂行シタル上
將ニ於テ直ニ列國ニ對シ前記(イ)(ロ)何レカ、自發
的聲明ヲ爲シ以テ條件迅速解決、途ヲ開スルヲ
肝要ナル旨ヲ切實ニ勸告セウレタス而シテ

(三) 蔣ニ於テ 右(一)(二)何レカノ勸告ニ從テ、決意アルニ
於テ、我方ハ非常決公使ニ訓令シ、列國ヲ、其
共同要求提出ヲ蔣ノ右聲明アル迄即チ必要ニ
充シ數日ヲ差控メ、レタルコトニ尽力スヘキ旨申
添ヘテ、結果電報アリタシ。

(四) 蔣又蔣ニ於テ、或ハ英米軍艦ノ砲撃ニ願ミ、之
等兩國ニ對シテ、ハ日本ニ對スルト同様ノ措置ニ出テ
~~難~~キ旨ヲ囑フルト已知レサル所、英米ノ砲撃ヲ
件ハ共同調査、上計ニ別ニ適當処置スルヲ得
ヲ、何レニモ南京ヲ件ハ關係列國ニ共通通ノ

性質ヲ有シ其ノ一國ト、解決ハ他ノ數國ト、解決ト
 互ニ牽連スル所アルヲ以テ我方ト、之ヲ單獨ニ行
 動シ得サルモノミナラス、我方ノ共同措置加入、理
 由ハ在支公使宛修電中「五四号」如ク必要ニ應
 ジ列國ノ要求、緩和ノ爲メ機微ナル考量ニ已基ク
 モノナルヲ以テ其ノ辺特ニ將ニ於テ考量ヲ加フル概
 可然勦說セウレバシ、

南京事件之因之在在都英國大使辭原大臣
來訪一件

昭和二年四月二日在在都「ナリ」英國大使辭
原大臣ヲ來訪シ北京ヨリノ電報ニ依リ「南京
事件共同抗議」之因之日本側ニ於テ原案中「タ
リハリミット」ニ關スル字句ヲ削除ヲ求ムル為ニ在
在東京支那公使ハ長江上流部々ノ日本人
生命財產保護ノ必要上最後ニ於テ「之ヲ要
全地帯ニ引揚ケシムル」要ナル如キヲ引揚

已實行セラル場所ニ列國モヨリ最後通牒ヲ以テ
強硬ナル態度ヲ示スヲトイフ日本ニトリテハ危險チ
ル旨述べタル由ニテ日本ノ右立場ハ自分ニ於テモ
了解シ得ル所ニシテ多分本國政府ニ於テモ右
削除ニ對シテハ異議無カルヘト思考ス尚英
國政府ハ独リ南京ヲ仲ミニテラス一般對支政策ニ
就テモ日英兩國間ニ常ニ自由且率直ナル意
見ノ交換ヲ行ヒ歩調ニ一致ヲ期シテ平意協十
リト述べタルニ付
幣原大臣ハ南京ヲ仲解決ニ付テハ既ニ在上海矣

田總領下ヨリ 轉介石之勸告云々所アリタル力出来
得ルハ南軍側ノ中心人物タルハナリ轉介石等ヲ以テ
速ニ自発的ニ処罰、賠償、陳謝、保障、四解
決ノ条件ヲ原則ニテモ承認スル旨声明セシメ事
件ノ円満解決ヲ計ルヲ得策ト信ス此際最後
通牒ニ類スル強硬ナル抗議ヲ轉介等ニ押シ付
クルニ於テハ斷トシテハ列國ノ最後通牒ニ属セ
スルカ又ハ之ヲ拒絶スルカ一ニハ方法以外ニ操ル
ハ中遠ニナシト思考セラルル如キハ之ニ屈セ
スルコトハ全然彼ノ立場ヲ破壊シ終ニ國民黨内部

關係ニ於テ其ノ部内ヨリ驅逐セラルルハ明白ナルヲ
 以テ到底之ヲ承認セサルハク寧ロ彼ニトリテハ不
 可能ノコトニ屬スルヲ以テ將ニ於テ勢此ノ列國ノ
 強硬抗弾ヲ拒絕スル場合右ニ對シ列國ニ於テ
 如何ニ知スルキヤ大ニ考慮スル要スルハ自分モ
 既ニ以テ拒絕ノ場合ニ於テ支那側ヲ以テ列國ノ
 要求ニ從ハシムルニ足ル
efficient coercive measure
 ヲ考ヘ居ルモ終ニ各案ヲ承認スルヲ得サル如先ッ
 斯ル強力手段トシテ

第一ニ考ヘラルハ對銷ナルヲ南軍ノ勢力範圍内ニ

於江、長江、廣東、香港、封鎖、それ等支那側、
 其苦痛ヲ感セサルヲ最モ苦シク、中一般國
 民ト雖從來ノ例ニ徴シ、案外之ニ堪ヘ得、ク最大
 ノ打撃ヲ受ク、モ、却テ外國ノ居留民、亦對
 支那貿易ニ從事スル外國商、業者、之ヲ封鎖ノ結
 果、其即ヲ甚シム、ヨリ、力、寧、口、列國、自、
 ム、ト、ト、ト、サ、ル、カ
 牙、ニ、三、考、ハ、ラ、ル、ル、ハ、砲、撃、ナ、ル、カ、砲、撃、ハ、所、謂、兵、要
 地點 (strategic point) ヲ目標トセサルヲ得サル、死
 命ヲ制シ得ル中心地點、即、Heart ヲ砲撃シ得ル

相当支那側ヲ屈服セシムルニ足ルハキモ其ノ現状
 二於テ殊ニ南軍ノ勢力範圍内ニ於テハ斯ル致命の兵
 要地ニ一モ存在セズ寧ロ少ナルハ一ト力随所
 ニ散在スル實然ナルヲ以テ砲撃モ亦此ノ散在セ
 ル小岳要地點ニ對シ爲サルコトヲ要シ而モ之ニ
 依リテ致命傷ヲ與ヘ得サルハテ結局砲撃ニ就テ
 己列國軍側ニ於テ窮境ニ陥ルノ結果トナル虞
 ナキナリ

第三ニ考ヘテハルハ Military occupation ナル如ク

ハ砲撃ノ場合ト同様致命ヲ制シ得ル岳要地ニ

占領セサルヲ得ス然モ前述ノ通り少ナル兵要地
點ハ各地ニ散在スルヲ以テ悉ク占領スルニ非サレ
ハ充分ニ効果ヲ得ヤ得サルハ多量ノ兵要地
矣ヲ廣大地域ニ亘リテ其占領スルコトハ軍事
上將又事實上ニ於テモ不可能ナラサルカ儼リ
右占領ヲ実行スルトシテモ先年支那ノ内亂ニ際
シ我方ニ於テ漢口ニ大隊ヲ派遣シ結局長期
ニ亘リ駐屯セシムルニ至リタルカ此際ニモ支那側ニ
於テハ之ニ對抗シ我方ヨリ遙ニ多量ノ兵力ヲ集中シ
得タルニ反シ我方ニ於テハ遠隔ノ地點ナラ關係上乏

援護後方連統ノ爲ニ敵ノ集中セル兵力ニ対シテ
又大兵ヲ後方ニ準備シ置クノ要アリ旁々大ニ苦心
シタル經驗アリ今回假ニ列國ニ兵力ヲ以テ兵要
地點ヲ占領スルトモ支那側ニ列國ノ兵力大ナリト見
レバ奥地ニ回避シ少ナリト見レバ虛ニ集メテ之ヲ
襲撃スルハ列國トシテ此事態ニ対シテ相當
長期ニ亘リ兵力ヲ駐屯セラルノ已ムヲ得サルニ
至ルハク然モ之ヲ播種ノ爲ニ屢々各地ニ兵力ヲ
移動セシムルノ要アリ結局列國軍ハ壽命ニ疲レ目的
ヲ達セスレテ自己ノ面目ヲ失墜スルカ如キ事態

ニ陷ラサルカ

以上、諸點ニ就テ、自分ニ於テモ種々考慮ヲ巡ラシ
タルモ何レモ有効ナル手段トハ考へ得ス而シテヤラズ假
ス何事カモ有効ナル手段ヲ見出シ之ヲ実行シ時
ハ國民政府又ハ國民軍力之カ爲倒壊スルコトアリ
トスルモ排外暴動、巢窟先共黨輩、派、農民又
ハ不規則ナル兵士等ハ何等痛痒ヲ感セス一時各方
面ニ潜伏スルニ止リ到底列國ノ兵力ニ依リ根絶シ得
ハセコト明ニシテ却テ彼等ハ隨所ニ於テ虐ニ集シ外
國人ニ對シ暴行ヲ逞シウスヘク無政府ノ危險ハ今日ヨリ

一層大袈裟且深刻ニ支那全國ニ瀰漫スヘキコト疑ヒ
 ヲ容レズ終ニ收拾スヘカヲサル事態ヲ現出スルモノト
 思召セラル其故ニ自今ハ今猶支那時局ノ收拾策トシ
 テハ武力ニ據ラス外交的平和的方法ヲ以テスルノ
 外ナシト考ヘ即前述ノ通將介石ノ如キ中心人物ヲ
 見出し之ヲ押シ去テ支那人自ラヲ以テテ問題ヲ解
 決シ時局ヲ收拾セシムルノ外ナシト思考スル次第
 ナリト述ヘタルニ
 英國大使ハ右ノ同感ノ意ヲ表シ進ニテ蔣介石其
 他國民陣中ノ穩健分子ニ對シ列國ニ於テ Material

support ヲ與フル等積極的ニ援助スルノ意ナキヤト
尋ネタルニ付、

幣原大臣ハ武器資金ノ供給或ハ兵力援助ノ如キ
所謂露骨ナル material support ヲ與フルハ却テ

將ヲ取ス結果ニ終ルノ虞アリ即漸ハ之カ爲彼等

ノ部由ヨリ賣國奴ノ非難ヲ受ケ其他蔣排外ノ

火ノキヲ揚ケシメ結果ハ却テ豫期ニ反スルモノト

思考セラルルヲ以テ列國カ露骨ニ年ヲ出スコト

無ク支那人ヲシテ自ラ「イニヤチ」イ「ウ」ヲトリ時局

ヲ收拾セシムルノ外ナシト述ベタルニ、

英國大使ハ然レトモ支那人自身ノ力ヲ以テ時局ヲ
收拾スルコト能ハストセハ如何ニスヘキヤ即支那
ニ於テ過激ナル共產主義カ全國ニ瀰漫セル場合
ニハ如何ニスヘキヤト尋ネタルニ付

幣原大臣ハ自分ハ支那ノ國民政府其他ノ状況ヨリ
見テ共產主義カ全國ニ行キ且ルモノハ信セ
サレトモ假ニ共產派ノ天下トナルモ二三年モ經
過セハ外國人カ再ヒ居留任貿易ニ得サル程危險
ナル状態トモ思ヒ考エテ創ハハ兩國革命ノ際政
治列國ハ大ニ其ノ危險ヲ恐レタルトモ現ニ日中ハ

年前日露國交回復以來現在ニ於テハ此ノ若者
 主幹ノ露國ハ一經テ何等危險ナク居住貿易
 企業ニ從事スルヲ得居ル實狀ニ照シテ其ノ場合
 ニ於テモ同様ニシテ左程恐怖スヘキコトモ非スト
 思召セラルル也才ナリ、
 要スルニ其ノ時局ノ歸趨カ何レニナルトモ列國ノ寧
 以テ之ヲ放任シテ隱忍其ノ結果ヲ俟ツノ外ナレト云
 ヒ得、一ツ時局ニ焦慮スルノ余リ慎重ニ考慮スル
 ニ於テハ一ツハポツシフルナルコトヲ強ヒテ行ハイトス
 ルハ政治家ノ操ルヘキ第一ノ非スト述ハクニ

英國大使の辭席大臣の意見に對しては、大體に於て總
ての點に亘り首肯せし得、中にも、ト信スト述、録
せしなり。

上海本

四月三日 前着

幣原外務大臣

矢野龍雄

才四三三

後更才四二二号之関

二日就黄郛来訪 蒋介石之回答云云其大

要次ノ如シ

一、日中政府ノ苦衷ト好意トハ好ク諒解シ衷

心ヨリ感謝ニ堪ヘス 御勸告ノ真一國民政府

内部ノ肅正整理ニ將一決心ハ既ニ確定シ

居リ目下將領ヲ招集シテ熟議中ニテ準備整

に次第断行ス、其一期百四五日、決タルニ、南京
事件、右肅整問題、即ち共產派分離問題、解
法、直ニ実行ニ着手ス、外務大臣ノ電報ニ
記載ス、ト、固キ約束ニ、于黄郛ハ其計劃、大
要ヲ説明シタルカ、右ニ依リ、目下上海ニ居ル中
央執行委員五名、中央監察委員十名ヲ以テ
武漢派ニ対シ本部ヲ集取リタル上、共產黨ヲ
排斥セントスルニ、尚右実行ノ前ニ、力ニ為
ス、キ事ハ、工人ノ武装解除ヲ行フニアリ、
二、特ニ、僑ノ希望トシテ、外務大臣ニ仰願ヒ、交ハ

南京事件之南へ抗議ハ日本ハ單独ニ行ハレズ
事ナリ若シ右絶對ニ困難ナル事情有ラハ砲
撃ニ参加セサリ、レ伊佛兩國トモ共同ニ願ヒタ
レ假令同一文句ニテモ甚シカラザルニ付英米ノモト
別々ニ行ハレタシ其ノ理由ハハ英國ニ對スル宣傳
ハ強ク民衆ノ頭ニ浸潤シ居リ之ヲ一掃掃スル
事容易ナラズ日本ハ力差シ英國ト共同シテ
強硬抗議ノ提出ヲ為ス事トナラハ民衆ハ直ニ
日英ヲ同一視スルヲ以テ日本ヲ不利ノ地位ニ陷ラ
シムル虞有リ

三、蔣ノ腹ノ中ニ秘シ居ル考ハ土耳其ノ例ニ倣ヒ佛國ノ
力ニ依リ「ボロ」ニテヲ放逐シタル「ケマル」バシヤ「タラ」ニ
トスルヲリ從テ南京事件ニ付テモ日本方砲撃ニ
參加シ居ラサルヲ幸美末ト切斷シ急速解決シ以テ
日本ノ援助ヲ仰キテ希望ナリ現ニ共產黨系ノ
汎全聯合会總工會并カ南軍ノ暴行ニハ觸レ
ズ、又英帝國主義ノ慘害ハ同胞ニ千餘名ヲ死
傷セシメ五百餘戸ヲ破壊セシメタリト大々的ニ排
英聲宣傳ヲ開始シツツアリ

上海
本署

三日 夜
四月四日 新羅

幣原外務大臣

矢田總領事

才四四二号

貴電第一〇七号之関心

蒋介石之「不即訓令」の白紙的聲明ヲ為サレタル報告

ハ当初本官ヨリ蒋介石着滬ノ間際ニ黃郛ヲ通シテ

為サントシタル時ナリト云ハ或ハ可能ナリトナルハキモ

既ニ蒋介石反對カ陳友仁及莫斯科(東方電)ト

相呼応シテ南京事件ヲ逆用シ美國ノ大虐殺ヲ

件(脱)トシ蒋介石打倒ノ目的ヲ以テ大規模ノ宣

傳運動ヲ開始シタル以上其矢先ニ將ヨリ自発的ニ
 英米ニ對シ謝罪、保障等ヲ聲明スル、即チ共產
 派ノ術策ニ陷ルモ一ニシテ將ヲ窮地ニ陷ルハ
 当然ナレリ將ヲ打倒ス手段トシテハ最有効迅
 速ナル政策ナリト虽彼ヲ守リ立テ行ク方針ト
 莫切ル次ヲ一ニシテ列國ニトリテ極ナク不利ナリト
 觀察セラル
 現ニ英鄧ニ對シ昨二日夜會見ノ際、本官ヨリ
 右聲明ニ言及シタル如ク英ハ夫レハ今日トナリテハ
 到底ニテ數ニト答ヘタリ以テ成否疑ハレキニ

付三日、黄ト会見、上(12)、案ニ就テ勸告ヲ武ムル心算ナリ、

他方、將等一為ス処ヲ見ルニ、白崇禧又一軍隊ハ、著々共産系武装工人ノ整理ニ着手シ、四月一日夜、先ツ南北ノ劇場ヲ占領シ、店リタム約四十名、自称国民軍ヲ包圍シ、テ姓名、死傷者ヲ生シタム。又武装解除ヲ実行シ、昨二日、同時ニ四ヶ所ノ本部ヲ襲ヒ、テハ衝突、後五百余名、武装解除ヲ断行シ、總テ此等ノ徒ヲ逮捕シ、龍華本部ニテ護送セラル、以テ見レハ、將ハ黄郛ヲ通シ、テ本官

二條達シタル処ハ只今迄一処着々実行サレテ、アル
モノト判断セラルヲ得ス又杭州ニ於ケル反共運動
ル新工会ノ成立ハ黄郛ノ言ニ依レハ將一指金ニ基
ノモノナリトコトエテ已ヤリ本官ハ茲西五月一様
様ヲ見テ果シテ將ニ実行能力アリヤ否ヤ一疑
問ヲ解決スルヲ然ルハキカト存ス

北京
本省

四月四日
四月四日
四月四日
四月四日

幣原外務大臣

芳沢公使

第三四一號

貴電第一五八號之函

四月四日四国公使ヲ招キ右貴電及上海宛貴電ヲ

七号ニ基キ詳細説明ノ上懇談ヲ遂ゲタル処四国公

使共日本政府ノ意見ニ同意シ遺憾ナク同意ニ至レル

旨ヲ述ベ(一)英米兩國公使ハ要求条件提出ノ遅延

ハ甚ク面白カラズ一日遅ルルヲトモ夫レ大ニ我々ニ不

利益ナリト述ベ佛伊兩公使共ニ競意ヲ表シタリ

(二) 英國公使の列國各支那側ノ共同調査ハ交渉ヲ往ラニ
 遷延セシムルノ虞アリト述、他ト云公使モ之ヲ首肯シタルカ
 本使ハ本使ノ見ル所ヲ以テスレハ多數暴行兵ノ(脱)ヲ居
 シ何レカ発砲シタリ等ノ事實ヲ今日ニ至リ之ヲ確力
 (脱)ヲ一々「アイチンチイフアイ」スルコトハ我々外國側ト
 シテハ頗ル困難ナリト思ハルカ南京若廖黨支部長友
 暴行兵ノ真直接上長官等ハ兵卒ノ「アイチンチイフイ」
 イレニシトハ明異リ直ニ判明ス、ク此等ハ責任者トシ
 テ嚴罰ニ附ス、キ兵卒等ノ「アイチンチイフイ」ニシ
 其他類似ノ問題ニ就テハ一応南京領事ノ意見ヲ徴

スルコトトシテ如何ト述ハタルニ 英國公使ハ直ニ賛成ノ意
 ヲ表シ南京事件領事ノ意見ヲ做スル際南條國領事
 ノ向ニ意見ヲ交換ヲモ行フコトトシテ述ハ米國公
 使モ之ニ同意ヲ表シタリ尚(一)ニ付 英國公使ハ支那側
 ニ於テ要求條件ヲ承諾セザル場合ニ於ケル制裁ニ
 付テハ 英國政府ニ於テハ 果目下考量中ナルカ甚
 クトモ制裁ノ主義ナリトモ述ニ 各國政府間ニ
 話ヲ續ケルコト然ルハ 本日本 國政府ニ上申シ置
 ケタルカ制裁ヲ加フ事大ニ各國ニ於テ異
 存ナカハ述ハタルヲ付本使ハ日本政府ノ意見

之ヲ以テ要求条件ヲ提出スル事ヲ却日同延期ニ見之
テ提出シタル後制裁ヲ加フル事否々ニ付テハ支那
側ノ態度ヲ見極メタル後ニ決定シタルト言フ
アリテ制裁ノ主義ニ付我方トシテ今直ニ同意ス
ル事ハ困難ナリト述ベ置キタリ

大体以上次ヲ以テ四國公使ハ日本政府ニ、今直ニ
要求条件提出ニ同意セサル場合ニハ政府ナレト
述ベ彼我双方ノ間協定ヲ見ルニ至ラズニテ解散ス

北京
本省

四月五日
四月五日
前
着

幣原外務大臣

芳沢公使

第三四七号

四月四日電餉ニ於て五國會議ノ席上米國公使ハ
同國政府ハ要求條件並右ニ對スル日本政府ノ修正
案(貴電第一五四号ニ)未だ參照ニ異存ナキ旨披
露シタリ

電送才二七二五号

昭和二年四月四日 后八时

在上海 矢田總領事

齋原大臣

南京事件 交渉ニ関スル件

第二二〇号

南京事件ニ関スル列國側抗議ノ件ニ関シ漢口ノ件

ノ突發幾並貴電才四三〇号(一) 蔣ノ計畫ヲ已

量ニ入レ又貴電才四四二号貴官ノ意向ヲ已

參酌シ在支公使宛發電才一六五号ノ通電報

ニ墨キタルニ付右御意ニ上將指導方此ノ上若

可然御配慮アリタル

尚在貴電に依りて之に於ては日本が美事ト共同抗
議ニ出ツルコトヲ氣ニ居ル処既に我方より共同抗議
参加ノ理由に経電第一〇七号(四)ニモ説明セル通りノ
考量ニ基き玉ふニレテ大局上支那側ノ為ニモ利益ナ
リト信ス現ニ我方参加ノ結果に抗議文中ヨリ
「タイリミット」ノ如キ最後通牒ニ近キ字句ヲ
削除シ得タル次第ナリ就テハ此ノ辺ノ消息可然
將有石側ニ即漏レノ上此ノ上際斯ル問題ニ拘
泥スルノ時期ニ非サルヲ望前シ置カレヌ

電送牙二七三三號

昭和二年四月四日 午後四時

在支芳沢公使

幣原大臣

南京事件交渉之關する件

才一六五号

一、貴電才三三二号ニ關シ貴官ノ措置機宜ニ適シ英

國公使ヲ初メ各國代表共ニ「タイルミット」ヲ削

除セシ我方修正案ニ異議ナク趣ナルハ貴方

ノ欣幸トスル所ナリ尚貴電才三三三三号本件

要求条件ヲ同時ニ陳友仁ニ通告スル「」在上海總

領事館本大臣宛電報才四二二号中段及漢

に總領事電才一七五号(一)(二)に徴し、蔣、漢口若彦
 河に對する様微ナル關係ヲ考量スルニ解決促進上却
 子好都合ト思考セうん尤モ右蔣ノ立場ヲ考慮シ且
 列國側トシテモ蔣國々對シテ非スルヲ國民軍
 全体ノ責任ヲ因テ主前ヲ持タルヲ將來ノ爲ニモ肝要
 ナルハキニ願フ貴電才三一〇号B unless、次ノ如
 キ之、the Nationalist Armyト修正スルヲ極メテ必要
 ニシテ右修正ハ往電才一五四号中ニモ申進ニ墨キタ
 ルモ蔣電ノ際脱漏セルガ才一〇二付此ノ際可然御取
 計アリテ右修正、上ハ貴電才三一〇号A要求書

件ノミナラス同電ヲノ事項モ同様漢口各領ヲヨリ
國民政府ニ申入レシメ置クコト可然

二、尙上海總領事電ヲ四三〇号ニ依リ蔣ニ啓

テ、非常手段ニ出テタル後責任ヲ以テ解決シ

當ラハトスル決心ナルヲ如ク又同人ノ共產派壓迫

ノ実行能力如何モ未田電本大臣宛ヲ四四二号ヲ

四四六号ニ依リ數日内ニハ見据ツクヘク此ノ以上

蔣ノ自発的聲明ヲ強ムルハ不面白ト存セラル加

之今回漢口事件ノ突發ヲ見ルニ至リ當方ニ程

テ、在上海總領事宛電報ヲ一九号ノ通り

現場ノ年當リ爲シ居ル功勞ナルカ事件ニ付テハ何レ
國民政府ニ抗議ヲ提出スル時今後必要ノ手段ニ
出ツル考ナムヲ以テ此ノ際南京事件ニ関シ列
國共同ノ抗議ヲ提出スルハ漢口政府ニ對スル聲
力ヲ重クスル意味ニ於テ好ミシキ功勞ナルニ付
米國側回列到達シ列國ノ意見纏リ先上ハ事件
抗議上海及漢口ニ於テ同時ニ時機ヲ逸セス
提出スル事可然ト思考ス、

南京事件ニ関シ在平邦英國大使幣原

大臣会強要領

昭和二年四月四日在平邦英國大使幣原大臣ヲ
來訪南京事件ニ関シ過日貴大臣ヨリ御話アリ
タル次第ハ自今モ同感ニシテ早速本國政府ニ電報
シ墨キタルガ際在平邦列國側ノ要求條件ヲ答ヘサ
ル場合列國側ニ於テ執ルハ中必要ナル手段ニ関
シ貴大臣ニ於テ已日交リ謝シ意見ヲ辯ハス事
大ニ御異存ナキモノト思考スト述ヘタルニ依リ
幣原大臣ハ右ノ御論自今トシテモ異存ナキモ唯々

自今如何ナル手段ヲ取ルヘキヤニ付何等ノ考察モ
澤ハサルガハニテ實ハ過般海軍大臣ニ相談シタルモ
同大臣ニ於テモ同様何者ノ妙案出ザルハ証ナルカ
由ク所ニ依リハ英中政府ニ於テハ如斯場合ニ取
ルハ制裁手段ニ関シテ陸海軍側ト協議シテ
ト在上海「キリ」ト提督ノ意見ヲモ何等成案ヲ得
ラハムトスルヤノ趣ナルハ自分ハ英政府カ日本政府
ヨリモ豊富ナル考察ヲ有セラレムコトヲ希望スルモ
ナリ唯タ茲ニ御注意ヲ請ヒたい
一 日本ト支那ト間ノ貿易額ハ日本ノ全貿易額

重要ナル其部分ヲ占メ居ルコトニテ英支間ノ貿易
モ勿論重要ナルニハ相違ナキ其ノ英國ノ全貿易額
ニ対スル比率ハ日支間ノ貿易ノ日本ノ全貿易額
ニ対スル比率ノ如ク重大ナラス從テ我國トシテハ
長期ニ亘リテ此ノ重要ナル貿易關係ヲ務ケラルル
ハ甚ク痛トスル所ナルヲ並

ニ之ヲ政治トシ大局ヨリ見ルニ日本ハ支那人ヨリ深
怨長恨ヲ受クルハ疑ハズ思ヒ難キ地位ニ在ルヲ

ニテ此ノニツト莫ハ充令者處ニ入レラレタコトヲ希

望スト答ヘタルニ

英大使ハ其ノ莫ハ自令ノ充令者處ニ得サル所ナリト述ヘ辭去

上海
本署

四月五日
前長
前署

幣外務大臣

矢田總領事

才四六七号

往要才四一四号之関之

四日英國總領事來訪南京了件ニ対スル日本政府ノ態

度豫解ニ甚シム關係國々旗ノ前ニ蔣介石ヲシテ謝罪

一「サリ」フクト「リ」有サレム件ノ如キ是ヲ實行ス「キ」

モ「ナリ」差シ此際列國共同シテ高ノ壓手録ヲ執テム

力漢口租界了件ハ起「ラ」リ「ム」タル「ハ」シ「キ」ト例ノ如キ

強硬論ヲ述「ハ」タルニ付可然ニ應酬シ置キタルハ其際

同郷録「新任交渉員来訪ノ節南京ノ件ニ就
中遺憾ノ意ヲ表スル」ト同時ニ砲撃ノ件ニ就テ抗議
ヲ留保スト述ハタルニ付右陳謝ト抗議ハ両方出来ル
モノト解ス、キヤ如何ト質問レタルニ分離ス、カラス
ト言ハルニ付然ラニ陳謝モ受ケ難レト答ヘタリト語リ
猶美米兩國總領事トモ来タリ爾分石ト合見セサル趣
ナリ、

北京
本省

四月五日
四月六日
午後

幣原外務大臣

芳沢公使

才三五七号

貴電第一六五号ニ對シ

四月五日四國公使ヲ招キ列國ノ意見纏リタル上

海及漢口ニ於テ時機ヲ逸セズ要求提出方日本政

府ノ訓電ニ接シタリト披露シタル如各公使共満足

ノ意ヲ表シ同時ニ美國公使ハ本國政府ノ電訓ニ依

レハ日米佛伊四ヶ國駐劄同國大使ニ訓令シテ

制裁ノ主義(一)要求条件ハ漢口政府ヲ主トシテ提

出と同時に蒋介石に提出する事(三)制裁の細目二付
るハ各國海軍官制の案ト共同作製する事三件
二付右四國政府ニ交渉中ニテ且交渉の結果右四國
政府より夫々在支公使ニ電訓、事ト信スル旨ヲ
述、且漢口政府ニ主トシテ要求條件ヲ提出スルハ
豫行石、地位ヲ薄弱ナラシメサル方然ルハ、トノ日
本政府ノ意見ヲ考量シタル結果ナリト附言シタ
ルニ付本使ハ日本政府ハ蒋介石ノ地位ヲ薄弱ナ
ラシムル事ハ大局上不得策ナリトテ力為勸告日周
要求條件ノ提出ニ方、見合ハセテ提議シタルモ條件

提出、相手方ヲ主トシテ漢口政府トシタルトノ趣意
トハ了解スル能ハス且要求条件提出、時機モ只
今披露シタル通列國ノ意見纏マリタル上ハ今日ニ
モ提出シテ可ナル次第ナリ本使ハ一己ノ意見ニテハ
漢口政府ヲ主トシ相手方ト為ス事ハ果シテ得策
ナリヤ多少疑無キ能ハスト説明シ置キタルカ元
来英國公使ハ最初ヨリ漢口ヲ主トスル希望ヤ
ルヤニ見受ケラレタルニ付漢口ヲ主トスル英國
政府ノ考察ハ或ハ同公使ノ提議ニ基クモノナリヤ
モ計ナ難キ也今因ノ要求条件ハ一種ノ最後通牒ト

毛看做シ得、千毛支那側ノ出様如何ニ依リテ其
一駁論ヲ圃取ル事トナルハ、終テ文句ノ多ク漢口
政府ヲ主タル相手方トナス、如何カト思ハル
殊ニ蒋介石トハ既ニ多少ノ諒解ヲ付テ居ル也
才ニテ之ヲ基礎トシテ交渉スル、ハ事件ノ解
決ト便利多キヤ、思考セラル尤モ既ニ英國大使
ヨリ閣下ニ申込済ト思ハルルニ付此ノ辺モ亦疾ク
御考慮ニ上リ居ル、ト存セラルルニ付何介ノ御意
見御電訓アリタク帝國政府ニ於テ差シ英國大使ノ
提議ニ同意セラル他ノ各關係國ニ於テモ同様美

國政府ノ提議ニ同意シ其ノ結果各政府ノ電訓當地
 ニ出揃フニ於テハ始メテ要求條件ノ確定ヲ見ルニ
 至ルガ才ナリ尙本日ノ會議ニ於テ前記英國政府ノ
 考案及要求條件ノ形式等ニ付研究ヲ重シクシ
 結果漢口政府及蕪湖石ノ兩者ニ提出スルノ案文
 ヲ別電ヲ三五八号及才三五九号ノ通リ夫々協定
 目ノ形式ニ *nots individual memorandum*
 ト爲シ漢口及上海トモ各國總領事打揃ヒ支那
 側ヲ訪問シテ之ヲ交付スルコト並ニ交付トシ直
 ニ各地ニ於テ「ス」ト「ト」ト「ト」ヲ發表スルトシ右

起草方米國公使ニ於テ之ヲ引受ケ一兩日中ニ出来
 上ル條ニ付其節直ニ電報スル
 以上諸点、中御承知
 認テ要スル上矣、夫々御義認
 可得タル

implicated.

(2) Apology in writing by Commander-in-Chief of the Nationalist army including an ex-press written undertaking to refrain from all forms of violence and agitation against foreign lives and property

(3) Complete reparation for personal injuries and material damage done.

Unless the Nationalist authorities demonstrate to the satisfaction of the interested governments their intention to comply promptly with these terms, the said governments will find themselves compelled to take such measures as they consider appropriate.

Yoshizawa.

Peking, April 5th p.m.

Rec'd., " 6th p.m.

Gaimudaijin,

Tokio.

No. 358

Under the instructions of the
Government, I am directed by the Minister
to present to you the following terms (which are
simultaneously being communicated to General
Chiang-Kai-Shek, Commander-in-Chief of the
Nationalist Armies) for the prompt settlement
of the situation created by the outrages against
..... nationals committed by Nationalist troops
at Nanking on March 24th last:

(1) Adequate punishment of the Commanders
of the troops responsible for the murders, per-
sonal injuries and indignities and material
damage done as also ? of all persons found to be

北京
省

四月
十五日
收
着

幣
外
務
大
臣

若
沃
公
使

才
三
五
九
号

I am instructed by the ... Minister to
hand you the enclosed communication
which is being made today to the Nationalist
authorities at Hankow:--

以下係電才三五八号卜同文

Unless Nationalist authorities demonstrate to satisfaction of interested government their intent to comply promptly with these terms the said government will find themselves compelled to take such measures as they consider appropriate."

The covering note to Chiang Kai-shek would be as follows: "I am instructed byMinister to hand you the enclosed communication which is being made today to the Nationalist authorities at Hankow."

昭和二年四月六日

在东京英国大使馆 海军大臣之手交

-1-

Under instructions of government, I am directed by Minister to present to you the following terms (which are simultaneously being communicated to General Chiang Kai-shek Commander-in-Chief of Nationalist army) for prompt settlement of situation created by outrages against..... nationals committed by Nationalist troops at Nanking on March 24th last.

(1) Adequate punishment of commanders of troops responsible for murders, personal injuries and indignities and material damage done, as also of all persons found to be implicated.

(2) Apology in writing by Commander-in-Chief of Nationalist Army including an expressed written undertaking to refrain from all forms of violence and agitation against foreign lives and property.

(3) Complete reparation for personal injuries and material damage done.

電送第 二八一五—六号

昭和二年四月六日 后寄 二〇号

在支

芳沢公使

幣原外務大臣

第 一 六 八 号

南京事件解決方法ト、之強制手段即武力使用ニ

付キ在北京英國公使ハ封鎖在南京日英米海軍先

任將校并ハ砲臺ヲ考慮シ英本國政府ニテモ少

スルズレハ一次官ハ吉田ニ対シ強制手段ヲ執ルコトニ

日本力同意セハ對支要求中承諾ノ期限ヲ附セサルモ

可ナリト申話シル武力使用ニ重キヲ置ケルモノ如ク

語タルルル此中大臣ハ四月二日英國大使並五日米國

大使来訪、即夫々領内ニ答へ、已ノ私見トシテ老ノ趣

旨述ハ盡キタリ

(一) 支那側ニ対スル要求貫徹ノ強制手段トシテ考ヘ得

ルモノハ (イ) 封鎖 (ロ) 砲撃 (ハ) 軍事占領等ナル如ク、

如キ手段ヲ果シテ如何ナル程度ニ有効ナリヤ、或

ル疑問ニ属スル南軍ノ勢力範囲内ニ於テ何レノ港

ヲ封鎖スルモ之ヲ爲原始的自給自足ノ支那國民

ニ対シ其ノ經濟的生存ヲ脅威スルカ如キ遙切ナリ

効果ヲ期シ難ク以テ國民政府ノ共產份子ヲ屈服

スルニ足ラズ、却テ最大ノ打撃ヲ蒙ルモノハ在支

外國人及各國ノ商工業者ナレハシ(四)次ニ砲撃ハ相手
方ノ死命ヲ制シ得ル極要地點ヲ目標トスルヲ要
スル処支那ノ現状ニ於テ大動脈ニ當ルハキ地點存
在セシキ動脈ニ比スハキ地點ハ到ル処ニ散在
スルモ之ニ對スル砲撃ハ相手方ニ致命傷ヲ與ヘ
スレテ徒ラニ無辜ノ人民ヲ殺傷シ有害無益
ニアル上虞アリ(五)最後ニ軍事占領ニ就テモ砲
撃ノ場合ト同様ニシテ假ニ比較的極要地點ヲ占
領スルトモ支那側ニテハ列國ノ兵力大ナリト見
レハ暫ク消極的抵抗ヲ繼續スルニ止メ一旦機會

下うは急ニ我軍信ノ兵ヲ集中シテ積極的抵抗
 ニ轉セムコトヲ試ムハ結局軍ヲ占領シ支那ニ屈
 服ヲ強フルノ動機トナラシメ却テ占領軍隊ニ
 絶ハス不安ノ原因ヲ與フハ往年日中ハ尼港
 事件解決ノ保障トシテ薩哈連ヲ占領シタル
 力ヲ重大ナル困難ヲ經驗セリ今又支那ニ於テ
 軍ヲ占領シテ試ムルカ如キコトアラハ其ノ困難ハ
 薩哈連ノ場合ニ幾倍スヘキヤヲ知ラス、
 (一) 假ニ武力使用ノ結果國民政府又ハ國民軍ヲ擊
 破シ得タリトスルモ排外暴動ノ策定タル國民

黨在傾名子殊之共羣衆派ヲ永ク彈壓シ得
サルハ明ニシテ彼等ハ隨所處ニ來レテ出沒シ排
外暴行ヲ逞テ列國軍ヲシテ奔命ニ疲ラセラル、
ミナトラス無政府狀態ノ危險、爲外國民安住ノ
時期ハ容易ニ到來セサルハク事態終ニ收拾ス
ルカラサルニ至ルハシ曩ニ西比利亞出兵、際ニ
ケルハバルカン半島ノ跳梁ニ似タル事態ハ去那ニ於テ
ハ一層大規模ニ且深刻ニ行ハルキヲ覺悟スルヲ
要ス、

(三) 將又日本トシテハ武力使用ノ影響者ト支貿易力

長期に亘り予阻害せらるゝ英米、如く對支貿易の全貿易の一部分を過すサレ外國ト異リ到底堪へ得サル所ニレテ更ニ之ヲ政治上ノ大局ヨリスルモ單ニ支那政界ノ一派ノミテラス國民產物ヨリ長ク怨恨ヲ招クカ如キ行動ハ極東永遠ノ平和ノ爲努メテ之ヲ避ケサルハ力ナシ。

(四)

如上ノ見地ニ基キ南京事件並一般時局ニ付テモ列國トハ及テ限リ支那ノ健全分子ニ之ヲ解決ノ機会ヲ与ヘ百万外交の手続ヲ尺ニシテ慎重ニ目的ノ貫徹ヲ期スヘク殊ニ有効ナル強制手段ナ

クレテ爾方在其、他比較的健全分子、領袖ニ対
シ俄ニ最後通牒ニ類スル措置ヲ執ルニ於テハ偶
々彼等ノ没落ヲ早ムルカ然ラサルハ列國ノ威信
ヲ損スルヲ免レサルハ南京事件其ノ他當面問
題ノ解決ニ急ニシテ其ノ行動ニ伴フ永遠ノ結
果ヲ輕ニスルカ如キハ極大ノ危險ナルヲ憂ヒサルヲ
得ス。

電送第 二八二七号

昭和二年 四月六日 午後二時二十分

在支 芳沢公使

幣原外務大臣

第一七〇号

貴電第 三四一号ニ関シ 関係国公使ニ 於テハ 矢田 鬼住

電第 一〇七号(四) 即チ 共同抗議ニ 先チ 支那側ヲ 以テ

自發的ニ 爲サレタト スル 声明ノ 内容ト 事件交渉開

始後 實際起ル 事 共同立會 調査ノ 問題ヲ 混在セラル

ニ 見受ケラルル 処 當方ノ 真意ハ 支那側ニ 於テ 何等

カ 形式ニ 于テ 責任ヲ 負フコトヲ 声明セシメタル 後

交渉ヲ 開始シ 右 責任履行ノ 具体的条件ヲ 定ムル

為ニ何レノ途共ニ調査ヲ行ハサルヲ得サルハシトスルニ
在リタリ交渉ノ順序ニ就テハ往電第一五二号ノ通ニ
当方ニ於テハ共ニ調査ヲ責任負擔ノ先決問題トス
ルノ趣旨ニアラス尤モ往電中一六五号ノ通最早支那
側ノ自発的聲明ヲ必要トセス列國ノ主張ノ通達ニ抗
議提出ヲ希望スルモナルヲ以テ今更ニ往電第一〇七
号(四)ノ問題ハ存セサル次第ナルモ今後交渉上ノ懸
念

電送 卅二八五八号

昭和二年四月六日 后 十时一五分

在 支 芳 沢 公 使

幣 原 大 臣

南京事件交渉英國案文二案不件

卅一七三号

別電

英國文案

(一) 卅一項トニテ 貴電 卅三三三号 括弧内 which

are also being addressed 4 which are

simultaneously being communicated to 1 1

Nationalist armies 3 Nationalist Army 1 改 +

タルモノヲ墨キ

(二) 才二、才三、才四項トシテ貴電才三一〇号 11) (2) (3) 要

求条件ヲ掲ク。

(三) 才五項ヲトシテ貴電才三一〇号 B ヲ unless

ヨリ書キ初メ Nationalist Army 7 Nationalist

authorities トシテ (此ノ真當方面ヨリ 異存ナシ) 本

邦 satisfaction their intention 7 to

satisfaction of interested government

ト改メ後ニ次ノ the interested powers 7 the

said government ト改メ。

(四) 本項トシテ左ノ一項ヲ附ス。

The covering note to Chiang Kai-shek
would be as follows: "I am instructed by
----- Minister to hand you the enclosed
communication which is being made today
to the Nationalist authorities at Hankow."

東京
本省

四月七日
午後

幣原外務大臣

芳沢公使

才三七六号

貴電才一七五号ニ関シ

四月七日五國公使會議ヲ開キ協議ヲ遂ケタル処

ハ市使ハ朝鮮系ノ通商謀ニ宛名ニ關シ漢口、上海

共ニ均シク同一ノ形式ニテ提出スル事ノ確望マシ

キ事ヲ述ハタルニ容易ニ經ラサルニ付漢口ヲ主ト

スル多數ノ意見ニ同意シ墨キタリニ他ノ各公使

ハ丁シヨクニトノトニ五ヶ國領ヲ共同署名シテ提出

スルノ説ヲ支持シタルモ本使ハ「アイズンハイワー」ノ
ノ説ヲ固執シ同時ニ五國領ヲ打撈ヒテ支那側ニ会
見シテ去々其ノ「ノート」ヲ提出スル事トナシハ本
使ニ於テモ同意シ得ル旨述ハタル知各公使ヨリ
今一心日本政府ニ稟議方依頼有リタルニ付且承
認シ置キタルモ同時ニ日本政府ハ「アイズンハイワー」
ノ「ノート」ヲ固執スヘシト答ヘ置キタリ(三)「ノート」提出後
南京ニ於テ若同調査ヲ遂行スル件ニ付テハ英國公
使ヲ初メ他ノ各公使ハ五國限リノ調査ハ必要ナルモ
支那側ヲ加ヘテ若同調査ヲ為スコトハ結ラニ曠日彌

欠トナリ面白カラストテ同意セズ但シ貴電一七〇
 号ノ御意即支那側ニ於テ全責任ヲ負フ事ヲ
 声明シタル後ニ共同調査ヲ行ハントスル即意向十
 八事ノ各公使トモ之ヲ諒解シタリ(四)制裁ノ問題
 ニ付テハ他ノ公使并ニ於テ是非之ヲ必要トスルノ
 意見ナリシニ付本使ハ貴電一七五号(三)ノ趣意
 ニ基キ説明シ置キタルカ米國公使ハ「一」ト「一」提出
 ハ制裁ニ關スル各國ノ意見纏リタル後ニスル方然
 ルハキ旨ヲ説キタルニ付本使ハ我方ニ於テハ制裁
 ノ問題ハ容易ニ決定シ得サル処ニ在リ此ノ決定ヲ

待ワニ於テハ、トト、提出、蓋々、遲延、不、中、ニ付、究
ニ角、制裁、ノ、肉、題、ハ、暫ク、之ヲ、措キ、至急、ト、ト、ト、提
出ヲ、実行、スル、方、望、マシト、述、ハ、其、結果、直ニ、英、米、兩
公使、ヨリ、夫々、於、ル、ハ、ウ、土、曜、日、朝、迄、ニ、訓、電、ニ、接、スル
標、清、訓、ノ、電、報、ヲ、發送、シ、佛、伊、兩、公使、ハ、他、ノ、各、三
公使、ノ、一、致、スル、決、意、ニ、同、意、シ、得、ル、極、限、ヲ、有、ス、更、ニ
多、分、土、曜、日、朝、会、合、スル、ト、ナ、リ、

上海省

四月七日
午前

幣原外務大臣

大臣
細
了

才四八四号

漢口發布官宛電報

才一二号

本官宛外務大臣宛電報

才一八二号

右ニ對シ本官ハ轉ニ於テ交渉ノ権能アリヤ不中ハ國民

政府收部ノ問題ナリハ若シ轉ニシテ交渉ニ充スル意

志アリハ外國國側ハ之ニ對シ其権能無キヲ告ケテハ

地位之非不要に、蔣自身より、一交渉ヲ漢口ニ移ス
 様、聲明セシムル事、順序ナルヤニ考フト述ハタルニ、陳
 氏曰、蔣ヨリ一入電ニ依ルニ、外國側ヨリ何等提議アリ
 ン旨、説明ナリ、若シ提議アリハ、蔣ハ必ス交渉ヲ当地
 ニ移スフト、確信ス、果シテ然リトセハ、外國側ニ於テ
 自ラ蔣ニ對スル申出ヲ避ケラレムハ、可ナルヘシト答ヘ
 タルニ依リ、本官ハ右ハ單ニ本官ノ参考途ニ須肉ニタ
 ル、一、一ナリ、日本側ニ於テハ、未タ蔣介石ト交渉ヲ開始
 セリトハ、兼知セズ、兎ニ角、要組ハ直ニ外務大臣ニ報
 告シ、何方ノ回答アリハ、直ニ内報致スヘシト述ハ、引取

タルカ目下当方面ノ空氣ハ日本ノ態ニ最モ重大ナル
墨中殊ニ此程素々官ヨリ陳友仁ニ対シ各種ノ内
題ヲ捕、相查深刻ニ警告ヲ與、タル事實ニ其ノ因
十ニ茲ニ対日方針ヲ明ニシ以テ其如感ヲ繫ホテ列
國共同干涉ノ危機ヲ脱セントスルモノト察セラル
右ハ我對南方政策ノ樹立上最モ重大ノ意義ヲ有ス
モノト思考ス尚本件ニ關スル卑見ハ別電ヲ以テ申
進ム、

上海
本省

四月

七日

午前
午前

幣原外務大臣

矢田總領事

才四八四号、二

漢口發、本官宛電報

才一一二号

本官發外務大臣宛電報

才一八二号、二

尙南京事件之關、之ハ御義知、通り國民院付ハ

其方針ト、之ハ引強、共同的對策ヲ根本的ニ否定

スルモノナルハ若シ曰、英、米、ニ、之ハ「ジョイント・ノウト」

ヲ提出セラルル事モヤラハ自今ハ之ヲ突返スヨリ方法
ナキ次ヲナリ然ルニ凡ソ國際問題（殊ニ日支間ニ於
テハ）当事者間ノ單獨平和交渉ヨリ解決ニ得ハ
力ナサル理由ナキニ付テハ日本ニ於テ此ニ留意
セラルニ必要ナル誤解ヲ避クル事ト改メテ又國民
黨ハ最近ノ會議ニ於テ外交統一ノ方針ヲ再ニ
「ユニファイド」ニシタル事實ハ御義知ノ通ニシテ右ハ
軍閥ノ跋扈ヨリ脱シ去ルカ近代の國家トシテ存在
在ヲ全フスル上ニ於テ缺クヘカサル要件ナル事ハ
日本ヲ始メ文明國ノ現状ニ鑑ミ貴官ニ於テモ今

感ナリト信ス程ヲ半荷ニ外交事件ニシテ國民政
府ヲ拘束スル協定ニ總テ外交部又ハ其正式代表
者ニ於テ交渉締結スルヲ日本ニシテ眞ニ自衛ノ
此ノ主張ヲ了解シ國民政府ヲ援助スルノ好意ヲ
テハ文武何レヲ向ハス権能ナキモノヲ拒メ交渉ヲ
開ク事ヲ避クム様セウレタリ希望ニ堪ヘス右貴官
ヲ通シ貴國政府ニ傳達スル煩交ニ
尚美國ニ就テハ既ニ「タイクマン」ト聯絡ヲ執リ或ハ
「ランボゾン」ニ再ヒ当地ニ来ルヲトナルハク豫期ニ居
ル次第ナリ云云

右ニ對シテ官^御申出ノ趣ハ直ニ外務大臣ニ電報スヘキ
知事官參事等迄ニ尋ね交キハ蔣介石ノ地位並ニ
彼ノ國民政府トノ關係ナリ最近ノ報道ナリヨリ察スルニ
日本政府ニ於テハ或ハ憐ヲ以テ南京事^件ノ當面ノ
責任者ト見做シ少クトモ事件ノ真相ニ關シ何等
「フィスカス」スルノ意アルヤニモ見受ケラルル節アリ
素ヨリ右ノ通ナリトスルモ日本ト蔣トノ間ニ何等特
殊ノ關係ナキ事實ハ改メテ説明ヲ要セサルハ唯
貴官ノ説明ヨリハ蔣ハ此程迄ハ接觸サヘ^ハ
貴官ノ權能ナ
キヤニ解セラルル如何了解然キヤト申述^ハタ

二陳ハ双方ノ誤解ヲ避ケル爲右ノ借由ニ確證ヲ與
メ得ル機會ヲ得タルヲ在テ薄ハ元來革命軍總司
令ニシテ外交ニ關シ何事ノ權能ナシ薄モ亦此事與
ハ当地政治委員會ノ電報ニ依リ兼知シ居ル等ナ
リ彼ハ上海入城以來鐵道方面及交渉員等ノ任命
ヲ爲シ居ルカ右ノ全ク越權ノ沙汰ナリ上海ハ既ニ
戰爭終結セル事ナレハ政治問題ハ國民政府ノ處理ニ
委スヘキナリハ陳ハ鄧泰祺ノ任命ニ關シテ已自分
子分ナルニ拘ラズ之ヲ違法ナリトシ党及政府ニ於テ
兼認スルヲ得スト附言セリ素ヨリ戰爭ノ遂行ニ與

之緊急ヲ要スル場合ニ關シテハ、蔣ニ於テハ、
 軍事々件ノミニアラス、重要ナル對外条件ナレハ、蔣
 一切之ニ干渉スル、權能ナシ、右ハ、蔣ニ對スル、共產
 黨ノ反感ノ表現ニ非ス、所謂國民黨内ノ「ス」
 リ「ワ」トシテ、關シテハ、世上之ヲ以テ、共產黨對國民黨或
 ハ國民黨内左右兩派、内爭ナリト傳フルモ、實ハ
 然ラス、斯ル問題ハ、既ニ解決セリ、蔣ニ對スル反對ハ
 單ニ彼ノ独裁的傾向ヲ許シ得サル為ナリトテ、黨
 内無効ナレ、所以、獨裁反對ノ主張ヲ繰返シ、説明セ

華盛頓
本署

四月六日
七日午後

幣原外務大臣

松平大使

第二〇号

四月六日國務長官ノ批示ヨリ 面会シタルニ 今長官ハ英
國大使ヨリ 本國政府ノ訓令ニヨタル趣ヲ以テ 南京事
變ニ關スル公文ヲ受取リタルカ 該公文ノ趣旨ハ 英國ハ
關係國カ 廣東側ニ於テ 要求拒絶ノ場合ニ至リ 制裁
ヲ加フルト同意スヘキ 諒解ノ下ニ 一タム、リミット
ノ削除ニ賛同ス、ル 米國政府ニ於テモ 右ノ趣旨ニ依リ
然ル、ク 在支公使ニ 訓令セ、ウレタムト云フ、ル 然米國

トレゾに從來トモ斯ノ如キ制裁ヲ加フルト同意
 タルコトナキハミナス又此ノ條約束ヲ解フルヲ能ハサ
 ルルヲミナシマシムニ対シテは美國公文ト共ニ右ノ
 趣旨ヲ電報シ置キタリト述ハタリ依テ本使ハ貴電
 才ハ六日号閣下ヨリ英米大使ハ述ハタレタル次第ヲ
 告ケタル処今長官ハ頗ル在色ヲ現シ一未タ東京ニ
 リ電報ニ接セサル様子ナリ一右ハ米國政府ハ考ヘト
 同ハナリト述ハタリ

漢口
海軍無線電

四月六日
七日 前

幣原外務大臣

高尾總領事

第一八五号

大臣宛公使宛電報第一八五号（一日午後接到）之依

レハ帝國政府ハ南京事件ニ関シ雅意ニ共同抗議提

出ニ決セラルタルヤニ認メラルトコロ 斯クゾハ只ニ当

方面ノ事態ヲ惡化セシメルノミナラス共同抗議ハ

当然突返サルルコト往電第一八二号報告ノ通ニシテ

シテ意心ヲ以テ交渉ヲ断絶セシメ更ニ又当地事態ノ

解決ヲモ困難ナラシメルニ至ルハレ既ニ漢口事件ノ發

7.

去也 今曰 美米ト 事情ヲ 思ヒセル 我方ト、
独抗 議ノ 形式トナシ 協調ヲ 破ル 意ニ アラス 以テ 交
渉ノ 決裂ヲ 避ク 然ルヘキ カト 存ス 御 函 考ヲ 請

電送第 二八七二号

昭和二年四月七日 午後三時一五分

在支芳沢公使

幣原大臣

南京事件交渉ニ関スル英國大使トノ會議要約

第 一七五号

一日在布邦英國大使來訪別電第 一七五号ノ文案
ヲ年交ニ將分石ノ年ニ依リテ時局收拾ノ望ナル限
リ彼ヲ屈辱的地位ニ陷レ其没落ヲ早ムルカ如
キ措置ハ之ヲ避ケルヲ得第トスト、日帝政府ノ意
見ハ英國政府ノ充分了解スル所ナリ就テハ列
國ノ要求ハ先ツ之ヲ國民政府ニ宛テ提出シ將分

石より同文ヲ通告スルノ形式トナサレトスルヲトシ
タレト云ハルニ付本大臣ハ事件通牒ノ順序ニ付テハ
既ニ在北京關係國代表者會議ニ於テ其ノ得失ヲ
審議セル結果先ツ將ニ要求ヲ提出シ陳ニハ其
旨ヒヨリ同時ニ通告スルヲ得策トスルコトニ議纏
リタルモノニシテ現ニ右別電文案ニ依ルモ条件
二ニ於テ國民軍總司令ノ謝罪ヲ求ムルヲトナ
リ居ルコトヲ指摘シタルニ英大使ハ右順序ノ要
更ニ寧ロ日本政府ノ趣旨ニ一層能ク適合スヘシ
ト見地ヨリ提議セル決メナルガ英國政府ニ於テハ

強ク之ヲ主張スルノ意向ニ非スト察スル旨ヲ述
タルニ付布大臣ハ兎ニ角主支公使ニ右英國ノ新
提議ヲ電報シ更ニ關係國同僚ト協議セラルル様
取計ヲシト答ヘ置ケリ元來本件交渉ノ权限ニ
付國民政府ト蒋介石トノ關係ハ外部ヨリ憶斷
シ得ハキ限ニアラサルノミナラズ國民政府ト云ヒ
國民軍總司令部ト云ヒ孰レモ列國ノ公然承認セル
モノニアラザルニ付右通牒ノ宛名ニ關シテモ其ノ
敦レニ置キテ置クヤヲ判斷然明示スル方如キ
形式ヲ避ケ双方ハ同時ニ且同一形式ニテ提出ス

ル方得策ト思考セラル尤モ此ノ問題ニ付關係國間ニ
議滿分レ通牒提出ノ遲延スルハ面白カラサルヲ以テ
貴皮ノ裁量ニヨリ關係國公使ト間ニ速ニ適宜協
定セラル差支ナレ

一 次ニ本大臣ヨリ英國文書案ニヨリハ本件要求ハ
蔣宛ノ分モ陳宛ト同様「ジョイニト、ノート」ニ
非スルヲ「アイニ」ニテイツク、ノートトスルノ趣旨
ナリト了解スル旨ヲ指摘タルニ英大使ハ之ヲ
首肯シタリ此ノ真ニ在上海總領事書電ヲ四三〇
号及ヲ四六九号ノ關係ヲ考慮スルニ英國文書案

通りアイザン
チイワク、ノート
スルコト好マレト思
ハスルニ列在
日ハ言ニテ可然措置アリ
交

三、抑シテ英大使ハ制裁ノ問題ニ異シ
去ル四日午大臣

ノ内話、決テハ日本ハ主義トシテ制裁ヲ加フル

ニ異議ナキモ其ノ制裁ノ方法ハ別ニ考量ヲ

要スドセラルニ意ナリヤト尋ネタルニ付
外大臣

ハ單ニ制裁ノ方法ニ有効適切ナルモノ
アルヲ想像

シ得サルノミナラス制裁ノ実行力
列國永遠ノ利害

ニ及ボス影響ヲ顧ミ遠ニ決定シ得ハ
中問題ニ非

答、墨ケリ、

PVM 27 ³/₁₄

電送第 二九三五号

昭和二年四月八日 午後七時一十五分

在支 芳沢公使

幣原大臣

南京 条件交渉ニ関スル件

外 一七九号

貴電外 一七六号ニ関シ

一、往電外 一七五号 英國文案及貴電外三五七号 共同

諸訓ニ依ルニ明ニ「アイゼンハツク、ノート」トスルハキ

答タルニ今更他各國公使ニ於テ「ジョイン、ノート」ト

セハ「主張スル」ハ當方「了解」ニ甚シク所ナリ就テ

ハ此点 矢張り貴見ノ通り主張セウタレ

北京
本省

四月九日收着

幣原外務大臣

芳沢公使

中三八六号

貴電中一七二号、中一七九号及中一八〇号に對し

四月九日四國公使より、台中御訓令に對し、我方

態度を説明せられ、処、英、法、公使の訓裁、點々付圖

執るんを要せし、直に要求條件を提出せし、二取

計方差支なき旨、一、訓電に接し、タリト披露し

米國公使の、中使より在米大使來電中一二〇号、以

容より、語リタルニ、拍ハラス、未タ斯、如キ電訓に接セ

スト述ハタリ佛伊西公使モ夫々電訓ニ接シ居タ
 リ力要スルニ各公使共制裁ノ點ヲ除外セハ直ニ要
 求条件ノ提出ニ着手得ル事明カトナリタルヲ別
 電ヲ三ハ七号（上海宛電ヲ五四号及漢口宛
 電ヲ六六号）上海及漢口宛同文電訓案ヲ
 協定セタリ尙暫ク石既ニ出宛後ナリヤモナリ
 難キ者上海宛電ヲ五五号同文電報案ヲモ
 協定セリ
 貴電ヲ一七九号即表示、次ヲハ詳細半使ヨリ各
 公使ニ説明シ其諒解ヲ得タリ尙經々御訓示ノ御

趣旨ヲ示シテ之ニ此ノ上要求條件ヲ提出ス
延カシムル事面白カラカニ付多少或ハ貴意ニ
副ハサル点アリトハ思ハルモ五國協調ノ必要ニ有
之ニ願フ以上ノ通り夫々協定ヲ遂タル迄付
此辺不惡御諒義アリ交シ

Please report urgently to the Legation and Foreign
Office(?) when you have presented the
demands.

Yoshizawa

Peking 27 April 9th, P.M.

Rec'd " " " P.M.

No. 387

Five Governments have now approved the terms of the demands for the settlement of the Nanking outrages. you are hereby instructed to concert with your four Colleagues and go with them on ~~Monday~~ Monday April 11th, and simultaneously present to Chen (or Chiang) the terms already in your possession. Identical instructions are being sent to Government (Hankow.) You are authorized to take note of any verbal observations that Chen (or Chiang) may make at the time of presentation of the demands but as we regard the demands as not arguable you should refrain? from any discussion. The terms of the demands will be published in the respective capitals and in China on Tuesday accompanied by a statement which will be telegraphed to you separately but which is not for communication to Chen (or Chiang).

昭和二年四月九日
五十一
二一三〇

着電

海軍次官

第一遣外艦隊司令官

軍令部次長

機密第二四八番電

南京條件要求不遂行、防範、兵力手段

之関、英長官、吳淞、江砲台、漢口、廣東

兵工廠、南軍海軍、差押、又、破壊ヲ行フ

政府、承認、了リト、日米、二協定、会開催、

米、前回研究、具体的、手段、政府、回答、答

セ、已来、夕訓令、無シ、日美、米、共、之、一致、セ、場合

2
11

(1) 南京下流

英長官

(2) 南京

米司令官

(3) 南京上流

英司令官

各々先任指揮官トシテ擔當シ各手段毎ニ三國代表

間參加各地同時ニ行フコトニ意見一致ス、

日本ハ手段ノ採否、具体的手段未決、佛伊又參

加スルヤモ知レズ實施ハ必要起リタル際更ニ協議

スヘク右ハ研究ニ照サス、

英ハ廣東兵工廠ハ爆撃、同時又ハ其ハ前砲台砲撃、

漢口兵工廠ハ砲台ト共ニ砲撃、然、南軍北進ニ依ル北

支方面、カ贊威ニ開スル米國側、憂慮甚タシク米公
使対策ヲ由合ハセ来レルニ對シ米長官ハ萬一、際ハ
公使館區域ニ立籠ルノ愚ヲ再演セズ天津方面ニ
引揚ヲ勸告セリト語レリ

蕪湖宛訓令

在支公使宛訓令

南京事件交渉經過概要

(昭和二年四月八日重組軍局第一課調)

南京事件善後措置之概略三月二十六日幣原大臣

リ(1)在上海失日總領事經由在蕪湖藤村領事

代理宛轉方石二寸之南京事件、重大性ヲ警告シ

予能ク惡化セサルニ先キ將ニ於テ本件、迅速

解決ヲ圖ルコト肝要ナル旨嚴重勸告方電訓シ(12)

次、二十八日在支公使宛本件解決ニ関シ、ハ

損害賠償將來ノ保障等、要求条件ヲ有制ニ取附

クルコハ列國ト共同シテ支那側ト交渉スルヲ得策
トスルノミナラス英米軍艦ノ南京砲撃ニ我海軍ノ
加ハラサリノ關係上我方ニ於テ英米支那側固ニ在
シ周旋ヲ爲シ得ルノ余地アルヲ等ニ願フ此際北京
ニ於テ日英米三國外被害關係國タル佛ヲ亦加メ
各公使團ニ於テ(一)支那側ノ解決條件ノ原則承
諾(一)正式謝罪、損害賠償、責任者処罰、將來ノ
保障等(一)並右(二)右原則兼認收ノ力實行ノ爲ニ
必要ナル共同調査ニ付關係國共同交渉ノ主義ヲ
協定シ且右交渉ノ順序方法ニ付協議スル中自電

蘇子石三封

子抗

文樂起

第一、共同交涉之關係國內協議

(1) 抗議文案、抗議提出、形式並時期等三要素。

肉
題

○ 要求条件为 2 南 3 北 五國公使共同電稟

三月廿八日午支日英第三國公使會合芳沢公使司

前祀蕪湖宛及同公使宛政村令，趣旨，以办强。

種々論議の結果、記本國政社宛電票案ヲ起草

シ芳沢公使ノ答復ニ依リ翌二十九日佛伊ヲモ加ヘテ
ル五國公使會議ニ於テ佛伊兩公使ニ之ヲ説明其ノ
賛同ヲ得右中國政府ハ電稟セリ

A. 在上海各國領事ハ蔣介石ニ對シ直々ニ交渉ヲ開
始シ蔣ニ對シ次ノ諸條件ヲ提出スルヲ

1. 虐殺・傷害・侮辱・及物質的損害ニ對スル責

任軍隊指揮官並之ニ關係セル一切ノ者ヲ適當

ニ処罰スルヲ

2. 國民軍隊指揮官ヨリ外國人ノ生命財産ニ害ヲ

ル一切ノ暴行及煽動ヲ為ササル旨ノ明約ヲ簽ス

謝罪状ヲ取付クルヲ

3. 生命財産上、被害ニ対スル完全ナル賠償、

B 轉介石ニ対シ若シ同人之於テ前記諸条件ヲ速カ

ニ応諾スルヲ満足ニ表明セサルニ於テハ關係各國

ハ其応諾ニ付期限一ヶ月ヲ付セサル

ヲ得サルニ至ル可ク其場合右期限内ニ応諾

ヲ得サルニ於テハ關係各國ハ其適當ト思フス

ル措置ヲ執ルハキコトヲ留保スル旨併セテ通告ス

ルコト

尚応諾ノ期限ニ關シテハ最初英國公使ハ条件要求

文書字句
修正方等二
案スル回訓

提出ノ時ヨリ幾日ト豫メ日限ヲ明定スルヲ提議シ

タルモ日米両公使ハ多少ノ齟齬ヲ設ケ墨クノ得策

ナルヲ説キタル結果之ヲ明定セサルコトトナレル趣ナリ

○帝國政府ノ回訓

右ニ對シ三月三十日幣原大臣ヨリ芳沢公使宛大要

左記ノ趣旨訓令アリタリ

(イ) 五國公使協定ノ次即ハ大体我方ニ於テ異存ナシ但

(ロ) 目下蔣介石ニ對スル共產派ノ陰謀盛ニシテ今次

南京ノ件モ蔣ヲ難局ニ立タシメ失脚セシメムトス

ル同派甚肉ノ計略ナルヲ關係各級アノ報告其

一他諸般ノ情況ヨリ見テ想像ニ難カサル所ナル
ニ顧ミ此際列國ニ於テ將ニ對シ列國ノ要求ニ応
セル場合ニハ實力ニ訴フモノヲ暗示スルニ於テハ却テ
共產派等ノ計劃セル將ノ失脚ヲ早メ長江以南ハ
更ニ甚シキ無政府狀態ニ陥リ收拾ス可カラサル事
態ヲ現出スルハ惧アルヲ以テ南軍側ニ於テ不完全
なニ統治ノ中心トナリ居ル健全分子ニ對シ時局ノ
安定ヲ計ルハ機會ヲ与フルヲ得策トスルニ付五公使
協定ニ応諾ノ期限ニ關スル字句ヲ削除シ且蔣介
石ニ於テ応諾セサル場合ニ云々ノ趣旨ヲ示シアル字

句中「蒋介石」ヲ「國民軍」ト修訂スルヲ要求ス、

(1) 蒋介石カ列國ノ要求ニ応セザル場合、強硬手段ニ關シ

テ、我方ハ右修訂ヲ至タル共同要求ヲ提出シタル上

ニテ、蔣其他南軍側ノ態度ヲ見定メタル後、右強硬

手段ニ出ヅルヤ否ヤ之付録ニ對策ヲ講ズル

コトハ、レタリ、漢口以上長江沿岸ニ二千ノ居留民

六箇所ノ領事館出張所等ヲ有スル日本トシテ、

之カ救護又ハ引揚等ニ相当地知リ要シ、英國側

ハ如ク直ニ強硬手段ヲ執リ得ザル上ヲ已テ考慮ニ

加ヘ適宜英米側ニ説明アリタリ、

タイリミット
削除ノ件

陳友仁ニモ
通告ノ件

○四月一日、日英米佛伊五國公使會合先ツ芳沢公使ヨリ

前記政社訓令ノ趣旨ヲ述、前回會議起草ノ蔣方

石宛抗議文中「タイリミット」ニ關スル部分削除方ヲ

提議シ次子英國公使ハ本國政社ヨリ要求事件ハ

大作業認スル旨回訓ニ接シタルカ同政社ニ於テハ

謝罪ニ付テハ蔣介石ヲ被害國ノ *permanently*

*military parade*ニ臨ミ國旗ニ敬禮セシムルヲモ一

案ナリ又(四)本件要求條件ハ蔣介石ニ提出スルト

同時ニ陳友仁ニモ提出シ蔣介石ニ要求條件ヲ承

諾セシムルニ便セシムルヲ可然トノ意見ナリト述

尚舊介石カ在条件ヲ承諾セザル場合ニ対スル制裁
ニ付テハ更ニ英國陸海軍側ト協議シタル上在上海
リツト提督ノ意見ヲ已微シタル後同公使ヨリ日英
佛伊四國公使ニ通告スハレトノ訓令アリタル旨ヲ披
露シタリ（尚佛國公使ハ砲撃ハ絶対必要ノ場合ニ限
ルモ其ノ他ニ付テハ五國協調ノ趣旨ニ依リ行動スニ
トノ訓令ヲ受ケ又伊國公使ハ他四國公使全部一致
ノ措置ニハ總テ同意シ差支ナキ旨訓令ニ接シ居ル
趣ナルカ米國公使ハ未タ回訓ニ接セズ）斯クテ種々
意見交換ノ後結局我カ方提議ヲタイムリミットニ

關スル部分削除方ニ付テハ英國公使初メ各國公使トモ
右ニ異存ナキ旨ヲ述ベ又前記英國政府意見中約ハ
實益ナク而モ作面ヲ重スル支那人ニハ不向ナルヲ以テ之
ヲ見合スコトトシ(12)ニ付テハ軍ニ陳友仁ニ通告スルコトニ
止ムルコトニ意見一致シ陳ニ對スル通告前文案ヲ協
定シタルカ

次テ四月四日五國公使會合シ陳米國公使ハ中國政
府ヨリ五國公使協定ノ文案並日本政府修正文案美
國ノ旨回答アリタル旨ヲ披露シ又芳沢公使ヨリ抗
議文案B中萬方石云云トアルヲ國民軍云云ト修正

抗強提出暫
ク延期方針

方提強レタルニ對シ各國公使何レモ右修正ニ異存ナ
旨ヲ述ハタリ

尚右會合ノ席上芳沢公使ヨリ(ハ)政府ノ訓令ニ基キ
此際可成蔣介石ノ自覺的聲明ニ依リ事件解決ヲ

迅速且良好ニ導クコト可然トノ見地ヨリ(右ニ關ス

ル事)田總領事ノ一措墨ニ付テハ後段ヲニ參照)

列國ノ抗強提出暫ク延期方ヲ提強レタル處各國

公使何レモ本件抗強提出ノ遲延ハ面白カラズ

意見ヲ述ヘ又(四)蔣介石ニ於テ全責任ヲ負ヒ南

京事件ヲ解決スル之前ニテ列國各支那側ニ於テ

共同調査ヲ行フ、案ヲ提議シタルニ對シテモ英國公
使初各國公使トモ右ハ交渉ヲ往ニ遷延セシムルノ
料アリトテ反對シタルカ結局ハニ付テハ各公使トモ
日本政府ニ於テ要求條件即時提出ニ同意セリ
レハ致方ナシト述、又(四)ニ付テハ一応在南京各關
係國領事ノ意見ヲ徵スルヲトテリ。

○帝國政府ノ訓令

右會議ニ關スル芳沢公使ヨリノ報告ト入レ達ニ前記四
月一日關係國公使會議ニ於テ決定セル要求條件ヲ陳
友仁ニモ通告方ノ件並右提出ノ時期等ニ關シ四月四

陳友仁之
提出方ノ件義
認

時機ヲ逸セ
ス批評提出
可然旨訓令

日幣系大臣ヨリ芳沢公使宛大要旨ノ趣旨訓令ノ
次アリタリ

一、本件要求条件ヲ同時ニ陳友仁ニ通告スルコトハ舊ノ

漢口共產派ニ対スル機微ナル關係ヲ考量スルニ解

決促進上却テ好都合ト思考セラル尚本件抗議

又ハ前回訓令ノ趣旨ニ依リ修正ノ上ハA要求条

件ノミナラスBノ事項モ同様漢口各領ヲヨリ

國民政府ニ申入レシメ置クコト可然

二、在上海總領事來電ニ依リハ舊ニ於テハ非常手段

ニ出テタル後責任ヲ以テ解決ニ當ラントスル決心ナ

ルカ如ク又同人、共產派压迫、実行能力如何を
日办ニ見据ワク、之以上得、自発的声明ヲ
強エ、面自カラス存セ、之を以て漢口事件
突発ヲ見ルニ至リ、當ニ此ヲ不取敢居留民保護
ニ關スル現場ノ手當ヲ爲シ居ル、故ニ本件ニ付
ハ何レ國民政府ニ抗議ヲ提出スル必要ノ手續
ニ出ツル考ナルヲ以テ、此ノ際南京事件ニ關シ列國
共同ノ抗議ヲ提出スルハ漢口政府ニ對スル圧力ヲ重
クスル意味ニ於テ好マシキ事ナルニ付、若國側面
列國達シ列國ノ意見纏マリタル上ハ本件抗議

英國案提
出

右ニ示スル
我方ノ意向

ハ上海及漢口ニ於テ同時ニ時機ヲ逸セズ之ヲ提出
スル事可然ト思考ス

○共同抗議ニ關スル英國案

四月六日在本邦英國大使幣原大臣ヲ来訪別紙
甲号ノ如キ抗議文案ヲ提出スル一次アリ然レモ同日
幣原大臣ヨリ右英國大使ト一會談要領並英國
案ニ對スル我方ノ意向ニ關シ大要左記ノ趣旨
電報アリタリ

一 六日在本邦英國大使来訪別紙ノ文案一別紙甲号
ヲ付交シ蔣介石ノ手ニ依リテ時局收拾ノ望ヲ限リ

彼ノ屈辱的地位ニ陷シ其ノ没落ヲ早ムルカ如ク指
星ハ之ヲ避ケルヲ得策トスト、日本政府ノ意見ハ美
國政府ノ充分了解スル所ナリ就テハ列國ノ要求ハ先
ソ之ヲ國民政府ニ宛テ提出シ轉介石ニハ同文ヲ通告
スルノ形式トスルヲトシタレト云ハルニ付本大臣ハ
本件通牒ノ順序ニ付テハ既ニ在北京關係國代
表者會議ニ於テ其ノ得失ヲ審議セタ結果先以
轉ニ要求ヲ提出シ陳ニハ其ノ旨ヲ同時ニ通告スル
ヲ得策トスルヲニ議議リタレモ一ニシテ現ニ右別
面文案ニ依ルモ条件ニニ於テ國民軍總司令ノ

謝罪ヲ求ムルコトナリ居ルヲ指摘セタルニ
英大使ハ右順序ノ変更ハ寧ロ日本政府ノ趣旨ニ
一層ヨク適合スヘキトノ見地ヨリ提議セル次第ナルカ
英國政府之於テハ強ク之ヲ主張スルノ意向ニ非スト客
スル旨ヲ述ベタルニ付、本大臣ハ兎ニ角在支公使ニ右
英國ノ新提案ヲ電報シ更ニ關係國同僚ト協議
セシム様取計アリト答ヘ、墨ケリ元來本件交
渉ノ權限ニ付國民政府ト、蔣介石トノ關係ハ外
部ヨリ憶斷シ得ヘキ限ヲ非ラサルニミナス國
民政府ト云ヒ國民軍總司令ト云ヒ就レ右列國ノ

公然承認せんモノニ非ケルニ付右通牒ノ宛名ニ南シ
予モ其ノ孰レニ重キヤリ判然明示スルカ如
キ形式ヲ避ケ双方ノ同時ニ且同一ノ形式ニテ提出
スル方得第ト思考セラルルモ此ノ問題ニ付關係國
由ニ豫備令レ通牒提出ノ遲延延スルハ面白カラサ
ルヲ以テ貴官ノ裁量ニヨリ關係國公使トノ間ニ速
ニ適宜協定セラルレ差支ナシ。

二、次に本大臣ヨリ英國文案ニ依レハ本件要求ハ將宛
ノ文モ陳宛メト同様「レ」ヨリニト、ノ「ト」ニ非スレテ
「アイ」ニ「イ」ツク、ノ「ト」スルノ趣旨ナリト了解スル

制裁問題

旨ヲ指摘シタルニ英大使ハ之ヲ首肯シタリ此ノ点ニ在
上海總領事ニ對シ黃郛ノ語レル所甚ニ他ヲ考慮
スルニ英國又案通りフイリニテイワハノートスルコ
ト好ミト思考スルニ付右ノ言ニテ可然指墨アリ
タリ

三 轉ニテ英大使ハ制裁ノ問題ニ關シ去ル四日本大臣ノ
外強ノ次ヲハ（後段（四）参照）日本ハ主義トシテ制
裁ヲ加フルニ異議ナキモ其ノ制裁ノ方法ハ別ニ
考量ヲ要スルトモセラルル意ナリヤト尋ネタルニ付
本大臣ハ單ニ制裁方法ニ有効適切ナルモノアルヲ

五國公使
共同電報

想像し得サル一ミナラズ制裁ノ実行カ列國永遠
利益ニ及ホス影響者ニ顧ミ遠ニ決定し得ハキ内題ニ
非スト答ハ墨ケリ

○然ルニ電報トテ違ヒニ芳沢公使ヨリ五日北京

五國公使會議ノ模様電報アリ（四月七日着電）左

ニ依リ同日美國公使ヨリ前記美國文案ヲ提出

シ在キ邦英國大使力幣原大臣ニ述ハクント同様

ノ説明アリ討議ノ結果

(1) 各公使由トモ右案ヲ本國政府ニ電報スルヲ

(4) 形式ハ「インテリ」ウイテスアル、メモランダムト爲シ

漢口リミット
之提出

漢口及上海ト已各國總領事打揃ヒ去那例ヲ訪
問交付スルヲ

(1) 右交付ノ上ハ直ニ各地ニ於テスルモノトテ完
表スルコト(米國公使之ヲ起草ス)

ニ協定シ各中國政村ニ清列スルコトナリタル趣ナリ
シニ依リ七日幣原大臣ヨリ本件ハ前記所日登列有
趣旨ニ依リ可然措置スルハ尚フスモノトメントハ一件已
差支ナキニ日回列アリタル

○四月七日五國公使會議開催、經過大要如左

(一) 芳沢公使ハ本件通牒ノ宛名ニ關シ漢口、上海共ニ

「ジョイニート」
トト由題

均シク同一ノ形式ニテ提出スルヲノ望ミレキヲリ
述ハタルモ容易ニ纏ラサリレニ依リ漢口ヲ至トス
ル多ク一意見ニ同意ス

(二) 他ノ各公使「ジョイニート」ニ五ヶ國領事共

同署名方ヲ主張シタルモ若沢公使「アイニ」

イックノ「ト」ノ説ヲ固執シ五國領事ヲ打揃ヒテ

其那側ニ意見表々其「ト」提出スルヲトナシ

ハ同意ニ得ハキ旨述ハタル如各公使ヨリ令

元日本政府ニ清訓ヲ依頼有リタルニ付承認シ

置キタルモ同時ニ日本政府「アイニ」イックノ「ト」

共同調査
問題

制裁問題

7 国執之、之に答へ置きたり、

(三) 1. 1. 提出、故南京に於て共同調査を行はしむ

2. 付て、英國公使に對し、初に他、各公使の支

那側を加へしむ、之に往て之を曠日彌久としたり面白

うなると同意せしむ。

(四) 制裁問題に付て、他、公使等と於て是非之を

必要とすとの意見あり、之に付芳沢公使は前記

英國大使との合談の際、之を幣原大使に答へたる

所と同様、趣旨を之に説明し置きたるが米國

公使は、之に對し、提出の制裁に關する各國の意見

○ 右ニ對スル政府ノ回答

纏リタル後ニスルカ方然ルノ中旨ヲ説キタルニ付
若シ公使ハ我方ニ於テハ制裁ノ問題ハ容易ニ
決定シ得サル所ニレテ此ノ決定ヲ待ツ之ヲ於テハ
ハトト提出益々遲延スルノ兎ニ角制裁ノ
問題ハ暫ク之ヲ措キ至急ハトト提出ヲ
実行スル方望マント述ベ結局英米兩公使ヨリ
至急中國政府ニ請訓ノ電報ヲ發シ佛伊兩
公使ハ他ノ各王公使ノ一致スル決定ニ同意シ得
ル権限ヲ有ス更ニ土曜日頃會合スル事トナシ

右に對し四月八日 齋藤外相ヨリ 芳澤公使宛 大要左記
一 趣旨 訓令アリタリ

一 前記英國案並 四月五日 五國公使一共同電案一 次
才モアルニ 各國公使ニ 送リ 今更ニ ジョイントノ一上
説ヲ 耳ニ 主張スルハ 不可解ナリ 我々トシテハ 矢張
リ「アインズレーツク」ノ一トスヘキ 旨ニ 主張スルニ
二 共同調査ノ件ハ 今後ノ 事柄ナシ 故此ノ 際肉題トスル
ノ要ナシ

三 割裁肉題ニ 異スル 我々 意向ハ 従来ノ 通ニ 尚米國破
府ノ 意向モ 大体我々ト 同様ナル 趣ナリ

南京先任
將校、清洲

(四) 針之強硬手段内題。

○ 南京下仲花生當日即三月二十四日在南京日英

米三國海軍先任將校會議ニ於テ南軍側ニ對

シ一室時ニ三國軍艦ニ來リ陳謝方方並損害賠償

ノ聲明方ヲ要求シ右容シラレサル場合ニハ南軍側

兵要地矣ヲ砲撃スルノ案ヲ可決シ各在上海司令

官宛請訓シタルカ右ニ對シ三國司令官會議ノ結

果此ノ際如此強硬手段ニ出ツヘカウサル旨ヲ回

訓シタルカ右ニ對シ英國公使ハ五月二十八日々英米

三國會議ノ席上右ノ次第ヲ披露シ右件ニ對シ同國司

英國側、意
向

令官ヨリ本國政府ニ今後、行動ニ付請訓シタル趣ヲ
以テ本國政府ヨリ同公使宛ヨリ米西公使ト協議ト上
何方ノ意見回申方訓令ニ接シタルト述テル所アリ
タリ

○四月一日五國公使會合、際英國公使ハ本國政
府ヨリ支那側カ列國ノ要求、条件ヲ聽カサル場
合ニ取ル、中強硬手段ニ關シテハ同國陸海軍
共協議立案、上在上海同國海軍司令官ノ意
意見ヲ已徴シ決定スル答テリト述ハタル次アリ
又四月三日在上海英米長官ハ本國政府ヨリ意

四國司令官
會議、意見
交換

ヲ徴サレタリトテ日佛司令官ヲモ加ハ私的意見
交換ヲ行ヒ民衆ノ損害ヲ成ルヘク輕減スルト共ニ
南軍ノ自負心ヲ碎ク趣旨ニ於テ左記ノ諸提案
アリ日佛司令官ハ此件意見交換ハ何等ノ拘束力
力無キ研究ニ留マルモ、ナルニ願ミ如斯手段ハ有
効ナリトテ私見ヲ述ベタル趣ナリ尚佛國側ニ於テ
ハ砲撃事ハ最後迄之ヲ避ケテ意向ナリト認メラ
レタル由

一、吳淞砲臺砲撃（英米）

二、江陰砲臺砲撃（英米）

對支強硬政
策三原則
會談

三、漢口兵工廠砲擊（英米、廣東毛）

四、南軍船艇差押（米）

五、支那商船差押（佛）

六、支那船、長江航海禁止（佛）

七、上海稅關收入押收（米）

八、南軍兵要地點砲擊（米）

（括弧内ハ提案國）

○四月二日四日在本邦英國大使又同五日米國大使來

訪、際偵問ニ応シ幣原大臣ヨリ私見トシテ述ル

所アリタニ別紙乙号ノ通

五國公使會
議ニ於ケル議
論

○四月四日五國公使會議、席上英國公使ハ再ヒ本件
強硬手段、件ヲ持出シ制裁ヲ加フルコト又ハ右
國公使ト異存ナカルヘシト述ハタルニ付、芬蘭公使
ハ日本政府ノ意見ニ于テ要求條件ヲ提出シタル
後制裁ヲ加フル中否中ニ付テハ、右那側ノ態度ヲ
見極メタル後ニ決定シ交ト云フコトアリ。制裁ノ主
義ニ付、我方トシテ今直チニ同意スルヲ得スト答ヘ
置キタリ。

○尚本件ニ關シ四月七日五國會議ニ於ケル各公使ノ意見
幣原大臣ハ、応酬振ハ前述べ、通(本調書外一)ハ未段参照

矢田總領事
對蔣勸告

第二、在上海矢田總領事ト蔣介石ト交渉

三月二十六日蔣介石上海ニ入りタルヲ以テ矢田總領事

ハ同日黃郛ヲ通シテ蔣介石ニ對シ南京事件ニ關スル

列國側ノ要求ハ要スルニ一、謝罪 二、賠償 三、処罰

四、保障ノ四ヶ条ヲ出サシメト思ハルニ付蔣ニ

於テ右条件即時実行方自覺的ニ聲明方可然旨

ヲ勸告シ墨中タカハ次ヲ本調書冒頭記載在蘇

湖領事代理宛訓令接到シタルニ依リ矢田總領

事ハ二十七日再ヒ黃郛ト會見シ右訓令ノ趣旨ヲ

好ク徹底セシムルト共ニ蔣介石トノ會見ヲ手配

矢田、藤介石
会見

セシト墨キタリ

〇 三月二十八日 藤介石ハ不取敢被害 奥係國領事館ニ交渉

負リ派シテ南京ニ件ニ関シテ遺憾ノ意ヲ表セシメ

且事件ノ真相分明ヲ俟テ 処罰賠償等ノ責

任ヲ執ルハ中旨ヲ申入レシムルト 共ニ同夜黃郛ヲ

矢田總領事ノ許ニ遣ハシ 我方ノ勸告ハ好ク諒

解スルモ 共ニ産派ノ將ヲ失脚セシトシトスル陰謀

盛ナル今日 処罰賠償等ノ即時実行ヲ速ニ声明シ

得サル事情アリ次第ヲ傳言セシメタルヲ次ヲ三十日

往訪セル矢田總領事ニ對シ南京ニ件ニ関シテハ

全責任ヲ負ヒ取調、結果ニ鑑ヒ犯人ノ処罰損害賠償
償等ヲ実行ス、レト述、英米軍艦、砲撃ニ日本
軍艦ノ参加セサリ、レヲ感謝シタム上、美田總領事力
南京予仲以來外國人ノ神聖益々過敏トナリ英米
佛トモ兵力ノ充實ヲ計リソソアル有様、エテ些細
ノ一ヨリ大予仲ヲ惹起ス、ハキ危険性ヲ藏スル重
大時機ナルコトヲ指摘シ上海ノ治安維持ニ付特ニ
留意ナル考慮ヲ要スル旨警告シタルニ對シ實意
以テ好ク諒承セルヲ以テ必ス嚴重ナル取締ヲ爲ス、
中旨ヲ明言セシタリ、

蔣ニ對スル
我方忠告

○四月一日矢田總領事ヲ以テ蔣介右ニ對シ今一紙嚴重
ニ其ノ決意ト反省トヲ促シタルノ必要ヲ認メ幣
原大臣ヨリ同總領事宛大要九記ノ趣旨ノ訓令
アリタリ。

(一) 蔣カ結息ノ解決手段乃至在留民保護ニ關スル
一片ノ訓令ヲ以テ日本其他列國ノ満足ヲ得ルニ足ルモノ
ト思考スルニ程子ハ同氏ハ共產派ノ跋扈ヲ取締ル
決意有之ニシテ自己ニ對スル内外ノ壓力ニ悲シク
爲シ南京ノ件ノ重大性ト之ニ對スル我方ノ
苦心トヲ了解セサルモノト謂ハサルヲ得ス關係

領事、報告之依ルニ、今回、暴行カ南軍正規軍一所
属部隊中共産派、党代表及將校等カ豫メ
準備計画シタル組織的、計画的暴行ニシテ而カ
已蔣及其一派、失脚ヲ早メタル陰謀ニ基
基クコト懸々明白トナレル。トナラズ上海其、他
ニ於テモ此一種陰謀、計劃セラルトシテ傾向
ル中ニ傳ヘラル果シテ然ラハ國民軍自作並蔣
各其、一派ノ運命ニ關シテモ重大機微ノ時ナリト
思考セラル他、一方ニ於テ國民軍中本件ニ關シ勇
氣果斷ヲ以テ解決ノ衝ニ當ルモノナレトモ、其支

那ノ國民運動ノ同情也。諸國モ遂ニ國民軍ノ前
途ニ望ミ絶テ列國共同自衛ノ第一出ツルニ至ルノ虞
ナレトモ現ニ北京ニ駐ケル列國公使間協議ノ模
様ヲ仄聞スルニ中ニ此ノ際蔣ニ對シ最後通牒ヲ
發セムヲ主張スルモノアリ此ノ間日本ハ徒ニ事
態ノ紛糾ヲ加フルカ如キ強硬意見ヲ緩和調停
セムトスルノ趣旨ヲモ加味シ進テ列國協調ニ
参加スルノ方針ヲ立テタル次第ナリ要スルニ蔣ト
シテ今ヤ内外一般ノ信頼ヲ得テ時局平定ノ
大業ニ成功スルカ又ハ内部ノ陰謀ニ制セラルヲ遂

ニ機会ヲ逸スルカ其運命ヲ決スルノ鍵ハ彼自身、
決心如何ニ在リト謂フべシ。

(二) 元來我方ニ於テハ、支那ノ純真ナル國民運動ニ對
シテハ常ニ同情ヲ惜マサルト共ニ支那時局ノ平定ハ
飽ク迄モ支那國民自身ノ努力ニ依テ成功セザル
ヲ祈ルモノナリト雖モ右國民運動ノ口實ノ下ニ
排外的破壊運動猖獗ヲ極ムルニ於テハ實ニ東
洋ノ和局ノ為ニミナラス世界人道ノ為メモ之
ヲ容認スルヲ得ス若シ蔣等ニレテ我カ方ノ甚哀
ヲ諒トセズ南京事件ノ解決ニ付テモ此ノ上荏苒

日ヲ重クスルニ於テハ我國海ノ沸騰ハ最早制止スル
ニ由テキニ至ルヲ夕日支兩國關係ノ前途ヲ思ヒ憂
慮ス堪ヘス

三就テハ貴方ハ黃郛ヲ通シテ蔣介石ニ對シ斂上ノ趣
旨籌ト申入レルト共ニ今一交其ノ深甚ナル
反省ト注意トヲ促サテトヲ試ミラレ交

蔣ノ回差
仍テ先日總領事ハ四月一日黃郛ト會見右訓令

一趣旨ヲ籌ト述ヘ蔣ニ傳ヘシト墨キタカ如テ二日黃
郛來訪蔣介石ノ回差トシテ大要左記趣旨ヲ述ヘ
タリ

一、日本政府ノ苦衷ト好意トハ如ク諒解シ衷心ヨリ感

謝ニ堪ヘ、御節告中ノ國民政府内部ノ肅清整理

將ノ決心ハ既ニ確立シ居リ準備整ヒ次ヲ断行ス

ハク其ノ期首ハ四、五日中ナルヘシ(四)南京ノ件ハ右

解決後直々ニ着手スヘシ

二、幣原大臣ノ願ニ致スハ南京事件ニ関スル抗

議ハ日本ハ單獨ニ行ハレヌコトナリ若右絶対ニ

困難ナリハ假令同一文句ニ予已甚カラサルニ付英米

ノモノト別々トセラレヌ

三、將ノ期スル所ニ於テ、一ツケマルパレヤ一タラムトスルニアリ

蔣、自覺的
声明、勸告

南京事件ニ付、毛、日、中、單獨迅速ニ解決シ今後日
本ノ援助ヲ仰中交ス

○四月二日此、際可成蔣介石、自覺的声明ニ依リ本

件、迅速良好ナル解決ニ導クコト可然ト、見地ニ基キ

幣原大臣ヨリ矢田總領事ニ對シ前回訓令ノ趣旨

ニ依リ更ニ彼ヲ激勵シ其、決斷ヲ促スト同時に事

態ノ紛糾ニ先々速ニ蔣ニ於テ矢田總領事指示、

解決条件ノ原則即処罰、謝罪、賠償、保障ヲ実

行スルノ決意アルヲ自覺的ニ声明スル力又ハ(四)

蔣力曩ニ同總領事ニ言明セル通全責任ヲ以テ

事件解決ノ之前ニテ其ノ解決条件ヲ定メルカ爲メ
係國代表者ト共同調査ヲ行フニ躊躇セサルハキリヲ
自覺的ニ聲明スルカニ着其ノ一ニ依リ責任負擔ニ
關スル誠意ヲ披瀝スルコト一切要ナル所以ヲ懇説
シ而シテ轉ニ於テ右(一)(二)何レカノ勸告ニ従フノ決意
アルニ於テハ我方ハ芳沢公使ニ訓令シ別國ヲシテ其ノ
共同要求提出ヲ將ハ右聲明アル迄即必要ニ応シ
如日尚差控シタルコトニ居カスヘシト申添フヘキ
旨訓令アリ(前段中一ハ参照) 矢田總領事ハ四
月二日黃郛ト會見右訓令ヲ執行シタルカ四月四日黃

高尾陳友
仁會談

鄧ハ先日總領事ヲ來訪シ蔣ニ於テハ右日午側節
告中(以)一案ナリハ実行シ得(レ)ト云ヒ居リタリト述
ハタリ

又三漢口國民政府討例ハ熊交

〇三月廿六日陳友仁ハ高尾^(總)領事ヲニ對シ南京事件

ノ發生ヲ深ク遺憾トスルモノナル旨ヲ述ハタルカ

次ヲ四月二日同總領事ニ對シ大要ヲ一趣旨ヲ語レリ

(一)國民政府ノ代表シ南京ヲ件ノ發生ニ付深甚ナル遺

憾ノ意ヲ表スルト共ニ日本領事館ノ損害ニ對シテ

ハ國民政府ヨリ自発的ニ「アロバ」アタントヲ為ス

考ナリ

(二) 日本海軍力南京砲撃ニ参加セサリシ事実ハ日本政府ノ対國民政府友情ヲ如實ニ示セルモノニシテ
今迄自分ノ一ツシヨナリストヤイナノ民衆ニ対シ覺
及政府ノ親日態云々聲明指導スヘシ
(三) 日本トハ單独ニ南京事件ヲ解決シテ若シ日英
米ヨリ「ジョイント・ノート」提出アラハ突返スヨリ
他致方ナシ

(四) 蒋介石氏ノ事件交渉ノ权限無シ

○ 九月四日陳高尾總領事ニ對シ前記(三)日本ト

單獨解決ノ意向ハ今日猶存スルモノナル旨ヲ述ハタリ
尚陳ハ四日葛尾ニ對シ漢口事件ハ之ヲ地方的問題
トシテ内滿ニ解決シタキ旨ヲ述ハタル趣ナリ

北京
本省

四月九日看

幣原外務大臣

芳沢公使

才三八九号

本官電上海宛電報

才五三三号

四月九日日英米佛伊五國公使會合、結果決議シ

タル各國公使ヨリノ在上海總領事宛同文電訓別

電才五四号一通リナリ貴地同米佛伊協議ノ上

然ル可ク御措置アリタル

四月
廿五
前
着

幣原外務大臣

田嶋 金三

五二四号

本官疏在漢口總領事電報

第二四号

八日夜黃郛來訪帝國政府，南京事件之南、北、

蒋介石一立場ヲ特ニ諒解セーんん好竟的措置ヲ逐一

蔣ニ倂、夕ル処蔣ハ大ニ感激シ夕ニ旨ヲ述、猶武

漢政村
之
對
之
對
策
決
定
上
(一)
武
漢
政
村
幹
部
解

動(會議・演説等) (二) 武漢以村。公布スル命令 (三)

武漢ノ一般状況ニ関スル情報ヲ蒐集スル必要アルハ
武漢政府ノ「セーサー」ヲ為入手困難ナルニ付テハ新
由情報程ニモ「二」宜敷キ故高尾總領事及海
軍ノ好意ニテ隨次御通報ヲ願ヒル間敷キヤト依頼
アリ又依テ本官ハ其程ニ「モ」テラハ本官ノ参考トシ
テモ極メテ有益ナル「ミ」テラス「フ」ハ「山」レス「ミ」ト「テ」ハ不
取敢高尾總領事及司令官ニ依頼シ見ル「ミ」ト答ヘ
置ケリ、

公表第一号一二

昭和二年四月十一日

外務省

南京事件之関し日英米佛伊五國政府ハ國民政府
當局ニ交付セル通牒ニ関し左ノ説明書ヲ發表

セハハ

國民軍南京ノ城ニ當リ三月二十四日朝ヨリ午後二時

國民軍中ノ制服ヲ着ケタル部隊ニ依リ外國領ヲ

及居留民ノ身体及財產ニ對シ組織的暴虐

行ハレ日英米佛伊諸國民ニシテ虐殺又ハ傷害

セウレタンモ一アリ 其他多あり者、暴行ヲ褫リ蒙リ
其生命ニ危虞ヲ及ホシ 掠奪並極端ナル侮辱ヲ受ケ
又婦女子、名状ス可ラサル暴虐ヲ蒙リ、英、米、
領ヲ領ハ、侵害セラル 其ノ国旗ノ威嚴ハ傷ケラル 南京
在住ノ總テノ外國人ノ家屋及學校造物ハ組織的ニ
掠奪セラル 又焼失セラルルモノ少カラス、
日、英、米、佛、伊、各國政府ハ斯クノ如ク 其ノ代表者
及平和ニ適法ノ職業ニ従事セル國民ニ對シテ明
カニ豫謀セラルタル暴行ニ鑑ミ、責任アル國民政府
當局ニ對シ、之カ満足ナル匡正ニ 付要求ヲ為スノ必要

ヲ認メタリ而シテ列國間ニ協定セル要求条件ハ務当
ヲ旨トシタル已ニ之ニテ此ノ際自國ノ威嚴ト國際
關係内ノ友邦ニ對スル義務トヲ認識スル何國ノ
政府ト莫ク其ノ佈面上區画ヲ爲シ得ル中最小限
交ハ已ニ之過キス、
是等ノ要求ハ固ヨリ關係諸國政府カ友邦ト信スル
ニ基テス且以此ノ親善協調ノ關係ヲ繼續改善
セタコトヲ熱望スル支那國民ノ主權又ハ威嚴ヲ傷
クルノ趣旨云フヲスレテ寧リト現在ノ友好關係ヲ
破壊シ且ツ友邦列國々民ニ對スル支那國民ノ不

信暢惡及先暴ヲ煽動セムトスル行動ニ依テ南
京ヲ件ヲ惹起セシムルニ至リル其即此外ノ助力ニ
對シテ之ヲ行フモノナリ

北京
本報

四月十一日 前着

郵務外務大臣

芳沢公使

升四〇一號

本官發漢口宛電報

卅七三號

四月十日 夜英國公使館及伊國公使館之實地美

國總領事十一日午前十一時伊國總領事午後十二

時三十分陳友仁二夫人面會するトナリ且陳ハ

五國總領事ヨリ同時ニ受クル事ヲ拒絕セタル旨ノ

入電ヲ先為午後十時五國公使會議ヲ開キ評

隊シタル処英、佛、伊、五公使に此上に共同通告トナ
ヨリ致方ナシト述、米國公使モ自命ト同國政府ト
ノ了解ハ同文通牒トナスアレトモ此場合自方モ若
同通牒ニ同意ス、ト述ハタルニ付、米使モ免ニ再明
曰ヲ以テ通牒ヲ交付ス、トハ絶対ニ必要ナリト日本
独リ自説テ固守シテ之カ為明ニ通牒交付シテ
レニシメ、トハ累テ及ホシ五國協調ヲ破リ其結果
陳ノ奇計ニ陷ルカ如キハ元ヨリ明白ナリ、ト次ヲ付
貴官宛大臣來電中四六号ノ精神ニモ願、ト米使ノ
責任ヲ以テ漢口政府宛ノ分タリハ共同通牒トシテ事

ニ同意ヲ表シタル結果貴地五國領事ニ對シ五國公使
ヨリ別電ヲ七四号一通至急電訓スル事トナリタリ
就テハ右別電ノ趣旨ニ從ヒ共同通牒ニ施シ四國領
事ト共ニ御署名ノ上首席領事トシテ五國領事
ヲ代表コシテ指定面會時刻ニ陳ニ會見ノ上通牒
ヲ交付セラル様ニ然ルヲ取計ニセラル